



孝中手紙焼

徳社重文



身 乙 亥 身 剛 新

俳諧季集 水鏡 系板

掌 手 挑 燈

江戸書林

修森堂梓

俳諧手挑燈

目錄

一 四季之詞

但春三月月より用し季有三月月は通し季六右の下に如此黒星と付置之四季共同断

并年中諸國祭礼



一 雜之詞

一 天象

一 簀物

一 降物

一 神祇 非神

一 秋教 非秋 兩部

戀レ非戀

迷懷レ非迷

居所レ非居

夜分レ非夜

衣服レ非衣

生類

旅躰

無涼レ傷

人倫レ非人

山類レ非山

水邊レ非水

食類

植物レ同高低

器財レ器財付ル

支躰レ支体付ル

書躰

風躰

同字レ字去之事

同付字之辨

月之辨

以呂波寄レ手介於兼大際

名所レ名所付ル

火躰

病躰

同別レ喰

賊物取樣

花之辨

一發句切字 并發句 歌仙

以上

俳諧手挑灯

凡例

哥一首 三十一字

素色くゝ委来にけし句妙の衣はそてふ河津の香ふ山

如け河津もきみ我也 篇序 題曲 流

又まゝ七りど六文字 は十七字と
よこのカト云 七まゝ十 は十四字と
ヤモのカト云

上中合ふと云とト一文字云

上の句篇序題にして下の句曲流なるをたのま
又上の句曲流下の句篇序題もあり

調の姿 六義也 風賦比興雅頌ト云

連歌俳諧ハ哥一首の上の句下の句と二句に分てむと

連句ハ上の句に下の句と附下の句に上の句と附

哥仙ハ三十六句百員ハ百句す

一頁の體ハ

一頁の體ハ初段のよその句に表裏交結ホオその時々の
季をハ切字と入すすうた句はくさへー 四季の詞表如
字入やう品くの表句ゆまうまに載りよく味ひあふべー

トハ

トモの句に表裏と日一季と結ひ表裏句のむとよの
うけく文字をうけにすべー
但時作連連とつらあつら連連とハあつらはやーと
つらあつらとつらあつら連連の表句に正月の言やうとつらあつら
の表句に正月の言やうとつらあつら正月の言やうとつらあつら
つらあつら

三トハ

上の句をて扱ふまうくはつらあつら一句のたけまうく表裏句
の併にあつらとつらあつらに連連にわらまうくすべー
このまうくはつらあつら正月の言やうとつらあつら
四季の詞の表にハ表裏連連とつらあつらつらあつら

四季ともははり
ありはつとてそとてあまう
但こゝのてあつたふあらんあもあつたあつたあ
こゝのてあつたあつたあつたあつたあつたあ

四句目

雑の句之 雑の句之 季のちあつたあ

五句目

月の定座と月の句とあつたあ 月、秋とあつたあ 秋とあつたあ

六句目

秋とあつたあ 秋とあつたあ 秋とあつたあ 秋とあつたあ

是より初裏、云、歌仙、をいふ
は次、神祇、尺、歌、意、を、常、連、續、等、何、れ、も、す、べ、し

初裏

句數月日の定座等末にあり記しむる仙の末とあ
お裁る句後仕やうよく味ひあつたあ

歌仙句數法

初表 六句内 五句月日定座 六句又月日定座

初裏 十句内 七句月日十句花 十句又花十句

此十八句と一折とあ

名残表 十句内 十句月

同裏 六句内 五句花 是とふひの花と云

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韵法

同裏	二表	同裏	初表
一折	一折	一折	一折
十四句内	十四句内	十四句内	八句内
九句月	十三句月	七句月	七句月
十三句花	十三句花	十三句花	十三句花

三表 十四句 右同断

同裏 一折 十四句 右同断

名残表 一折 十四句 右同断

同裏 一折 八句内 七句花白ひの花之此裏月云

右四折合テ百員也

初ノ二折を五十員ト云

四十四法

百員の初折ト名残の折ト合テ四十四句ナリ

右二折ニ月三ツ花ニツ法百員の云々

七十二候

百員の初折ト二折ト名残の折ト三折合テ

右三折ニ月五ツ花三ツ法百員の云々

源氏法

初表	同裏	同裏	同裏	名残表	同裏
六句	十二句	十二句	十二句	十二句	六句
内	内	内	内	内	内
五句	七句	七句	七句	七句	五句
月	月	月	月	月	月
					十句
					花

右三折二月五花三哥仙ノ法のさくら
 哥仙二折廿四句さくらさくらさくら

米字 八十八句

初表	同裏
八句	十二句
内	内
七句	七句
月	月
	十句
	花

二表	同裏	三表	同裏	名残表	同裏
十二句	十二句	十二句	十二句	十二句	八句
内	内	右	右	右	内
十一句	七句	同断	同断	同断	七句
月	月				花
					花
					花

首尾

哥仙	百員
初表	初表
六句	八句
五句	七句
月	月
合テ十二句	合テ十六句
云	云

裏白

六句カ
八句カ

表斗リスルヲ云

面白

十二句カ
十四句カ

裏斗リスルヲ云

三ツ物

発句股第三マテ三句スルヲ云

月

發句の初めは初表の月かきん

花

發句の初めは初表の花かきん

但し一正も八才と云ハズ
田のトナリ初表の内かきん

發句

表の初めは初表の月かきん

同

初表の初めは初表の花かきん 有リ無シ

同

尺貫の初めは初表の尺貫トナリ 有リ無シ

同

連中を初めは初表の連中トナリ

同

引ありの初めは初表の引ありとナリ

一節

文章に初めは初表の文章トナリ 連中トナリ

連句

表の初めは初表の表トナリ

一 順トハ 我より去る序の人数有第一句とあるをいふ
 再 遍トハ 右の人数の句又一毎句をいふ
 聯トハ 妻及秋冬之句と及冬二句と妻止の句は死
 吟 声トハ 句と考をいふ
 回 嶋トハ 妻人より二句も三句もはあてするをいふ
 獨 吟トハ かせんとも百めんとも妻人よりするをいふ
 兩 吟トハ 何〜二入とするをいふ之吟み吟も何〜をいふ

前 句トハ 我より去るの句をいふ
 運 吟トハ 句何うのかききいふ
 秀 逸トハ せられて能わいふ
 巻 頭トハ 我わいふ
 添 削トハ 一巻の点を宗門にもいふ
 即 点トハ 不違ふいふ
 批 言トハ かの所きふと宗門よりいふ

加筆トハ 句のりきふとあやとせとほるる

褒美トハ 句を免るるのみなり

筆句トハ 連中のかに批筆よりするものなり

打越嫌トハ 付てはる一かびと二面なるなり

二句去トハ 付より二句なるなり

三句去トハ 付より三句なるなり

字去トハ 付より一文字なるなり

五句去トハ 付より五句なるなり

引判 列判 引判 引判 引判 引判
夜季や竹田の歌は 後 後 月 松 枕 煙 乃 乃 乃
此分折面なりとあり

七句去トハ 付より七句なるなり

面去トハ 百頁八面の二面とてらと云傳 表も下 面裏も下 面とてら
表裏のちめてははるはりてあり

折去トハ 百頁四折の二折とてらなり

一ツ二ツ四ツ八ツトハ 一ツ 二ツ 四ツ 八ツとてらなり

訓に四ツ有りのハ音も四ツ有る百千方のこと一刺音

名所イシヨ 國名クニナ 在名等ザイメイダウ 或ハ官名クワンナ 苗字ナノジ 人の名ナノナ かに呼ヨウと云ハ

名所ナシヨ ありハ水辺山類ミヅヘノヤマ ありハ水ミヅ ありハ山ヤマ の躰カミ と道ミチ

時々の草木クサキ 菓カ 句段クワダ 喰物クハモノ にあるハその季キ ハ持モチ なるハ植物シヨク

とのウラ 魚イサ 鳥トリ 獸ケモノ ありハ喰物クハモノ にあるハ其季キ ハ持モチ なるハ生ナマ

のウラ 紋モン 所トコロ 或ハありハ紋モン ありハ所トコロ ありハ季キ ハ持モチ なるハ躰カミ ありハ

つゝあり

初ハジメ 奠トシ 秋アキ 二度ニタビ ありハ春ハル 後ノチ ありハ秋アキ

兼カミ 父フ 入イリ 秋アキ 二度ニタビ ありハ春ハル 後ノチ ありハ秋アキ

離ヒナ 三サン 月ツキ 二度ニタビ ありハ春ハル 後ノチ ありハ秋アキ

峯ミネ 入イリ 順ジュン 春ハル 逆ギャク 秋アキ 二度ニタビ ありハ春ハル 後ノチ ありハ秋アキ

古代コノコト より初表ハジメ の内ウチ 熾シ ひ来キ る物モノ の中ナカ に古人コノコト の名ナ の事コト 聖賢セイケン

公家クノケ 武家ブノケ 或ハ歌人カシノヒト 儒者ニホシヤ 医者イシヤ 町人マチノヒト 百姓ヒヤクシヤウ 能役者ノビヤクシヤ 職人シヨクシヤ 等トウ

の神祇カミ 釈教シヤクキョウ 憲ケン 無常ムジョウ 述懷ジュカイ 衰傷サイキョウ 等トウ ありハ古人コノコト の名ナ

表の内苦一が一尤在一と一其一同名所の事神祇釈
教慮無常迷懷等一なる一なる名所並國名町那等表乃
内苦が一旅各体右同断

野々口立南夜話云七十二候花信詩抄等之季俳諧取捨
有事也詩歌と引も同断七十二候に蜻蛉鳴ハ夏詩ハ鳴蛙
秋ハわれも連俳もに春之和歌に牡丹春花信棟春これ
らと連俳もと夏之此とちとあはれと詩歌候と引或を

詩書等一異様ある季と見出し俳諧と錯乱す一は
當時の四季正月元朝より極月乃至細々委く此書に記置
あり不通成一季不用

餘ヨキヤク真の事古来一ある一といふところより百員乃一經
句に發句ある一常の折ある一句と繼て表八句裏十
四句月花并太嫌等常の百員の法式少も違へ一と
百員結一次て續一二百員或續三百員と呼也

百員に一句の物も餘真ふハ又出以

但レ余真くく二句去三句去の物ハ式に本五句去七句
去面去折去物と多く三句去とす

俳諧手挑燈

○四季之部

春

大皞帝イハハ句芒神イハハ蒼天

東君トウキミ

詔ミコトノコト光ヒカリ

夏カ正マコト

正月

大簇律オホクサツ立春節イハハ兩水中フタツミ初陽ハツヒ青陽アヲヒ

孟春モウシュン 厥月クヱツ 睦月ムツキ 端月タンツキ 初月ハツツキ

いづ井月イヅイ 左所月ササツキ

元日	元朝	元旦	元三
雞旦	改旦	樹氣	聖節
履端	年始	年頭	改年
甫年	新正	三朝	三始
三元	復新	新春	子代の妻
君の妻	徳代の妻	四方の妻	花の妻
宿の妻	くふの妻	けさの妻	そりの妻

あつち	日の始	年の初	いのき
あつちの妻	年まうへ	四方拜	腰赤贄
朝拜	朝賀奏賀奏端群臣	天子東西南北と	紀後
天子の御前	天子の御前に仕ゆる	氷乃様	氷乃様
井開	井開	井開	井開
祇園削掛	祇園削掛	年德神	年神
年棚	年棚	年神	年棚

福鐸

押鮎

惠方

標

かんと税

穂長

太箸

惠方棚

注連飾

初鷄

俵子

大服

田作

裏白

掛鯛

年男

齒朶

初霞

以肴

鏡餅

開豆

福藁

庭竈

数の子

齒固

初空

喰積

初曆

曆開

巾一玉

御慶

門松

うさろりろりかきろり種大飾

雑煮

但飾

大こん羊

元カ

樺

福寿押

い孫法

室船

吉書

万歳

福引

初夢

弓始

謡初 舞初 彈初 松離 吹初 藏開 店卸

宝引 毬打 水祝 初賣

若餅 葩煎 水飴 初買

大黒舞 名ひひ色 猿まじり 船乗初 松の内 船玉祭 湯殿初

お宿弓 鳥追

お身矢 松の内

おこ板

春永

歳旦開

節振舞

羽子

初芝居

懸想文

馬乗初

三ヶ日

鏡開 四日

六日年越

若菜摘

急ぐはむ

とちまき摘

七種

鼠麴草

俗母子

蘿蔔

白馬節會

七かの秋枝を庭へ白馬の毛をまきおろすかひり白馬の毛をまきおろすかひり

踏歌

男こころ十五日 女こころ十六日 ちをるまゝわしりのおととちり

初子の日 子の
初寅の日 寅
箕面の富突 七日

初卯の日 卯
初卯の日 卯
初卯の日 卯

十日多びす大 女王祿と後八日
女叙位 同上

卯杖 初卯の日
常陸帯に神事

縣召 除目と
禁中へ下りて任官と

御連歌 十一日
武具鏡開 廿一日

左義長 十五日
爆作
土龍打 廿一日

綱引 十四日
御新 友新と
かゆ杖

粥占 十五日
街忌 十六日

小豆粥祝 同上
三保祭 同上

やぶ入 廿日
骨正月 廿日

上元日 十六日
湯去宗
贈弓 十八日

父不短 破の字
宿下り八難あり

暖ヌグ 独活トコグサ 雲雀ヒヨドリ 畑打タテ 餘寒ヨリカ 兒コ花ハナ

暹日シマ 鱒マス 防風フウフウ 鷓鴣シロコ 畑返タテ 暮寒ヨリカ 芹セリ

氷解ヒヤトク 凍解コウゲ 鱸ササガ 土筆ツチヒ 鮓膾ササガ 種物タネモノ 烏芋クハハ

鶯鳥ウラハ 春雨ハルノアメ 牙飯サハカヒ 蜺シジメ 芽花ツバハナ 海雲ウミクモ 野老ノロ

角ツノのノ根ネ堀コ 蓮レンのノ根ネ堀コ 猫ネコのノ妻メ窓マド 猫ネコのノ妻メ窓マド 若ワカ和カ布フ 若ワカ和カ布フ 黒クロ鳥トリ芋イモ 根ネ白シロ草クサ 芥カイ之シ

玉タマ江エ咲サキのノ水ミヅ鳥トリ轉マシ 鳴ナリ鳥トリ狩カ 猫ネコのノ妻メ窓マド 野ノ大オホ根ネ 若ワカ和カ布フ 三ミ葉ハ芹セリ 懶カサ魚イサとト祭マツル 鳥トリ轉マシ

水ミヅ和カ 魚イサ氷ヒにニ登ノボル 雜ササ菜ナ摘ツマム 三ミ葉ハ芹セリ 懶カサ魚イサとト祭マツル 鳥トリ轉マシ

嬰ウケ栗シれレ若ワカ葉ハ 落フキのノ臺タウ 木キのノ芽メ 黒クロ鳥トリ芋イモ 根ネ白シロ草クサ 芥カイ之シ 麗ウツカ 菠ホ菹ソウ 菠ホ菹ソウ

鹿尾

鶯菜

齊

青鱧

薑

干鱈

酢蛤

草萌

膏雨

白魚

東風

今年

春麻

春麻

春麻

椿

椿

二月

夾鐘

驚蟄

春分

陽中

如月

令月

衣更着

梅見月

小草生月 初花月

中和節 朔日

吉野の餅

春日祭

水間祭 初午

行基祭

遺教經

常樂會

柱炬火

比良八講

淺間祭

北野御忌

道明寺祭

萩奠

二月堂の行

誦念佛

萩奠

初午

初午

ちりちり 赤飯ホと代清

列見 十一日公卿 弁 少納言

大改直

献生子

朔日 朔日 朔日 朔日

社日 春分前後

社日 社日 社日

治聾酒

社日 社日

薪の能

十日

芝蔴

...

...

...

...

彼岸 中...

積塔

十六日 琵琶法師修ス

...

...

...

...

水葱摘

...

初雷

焼野

焼野

蛇穴

蛇穴

蝶

蜂

苗代

かぶる。かぶりもの

草の葉

五加木

麻すく

大根の花

虹

若紫

餅花煎

鳥の巢

銀杏の花

彼岸櫻

花と待

初花

馬刀

角落鹿

みどりのむ

二日灸

菜の花

かぐろ

蒲公

狗脊

杉菜

枸杞

胡葱

韭

えりり

袋鹿

接木

野蒜

蒸鱧

鳳巾

鱧

孕雀

接穂

引鶴

鳳巾

田螺

蒜

雀の子

引鴨

三月

姑洗律

清明節

穀雨中

季春

中和

花飛

竹秋

宵月

禊月

弥生

三

いやはい 様月

上巳 三日 桃旦 重三元巳

雛 大裏雛 紙の形 柳うらり

上除 柳の形 供

雛 雛の形 紙の形 柳うらり

曲水 三日巳

字 盃 羽 陽 飛 川 上より

沙干 恒春 加多 雨川

鶏合 闘る 花

寒食 二月の節 二日

己の日に 枝 上の巳日 川辺

須广の枝 源氏 經供養 二日 天王寺

高雄法華會 十日

やまゝひを 善道忌 十四日

壬生祭 十四日ヨリ 壬生の仏

嵯峨大念佛 十五日

千本念佛 寺中の

御身拭 十九日 汗を拭く

人麿忌 十八日 御影供 廿日 高雄女詣 廿日

吉野社會式 十日 浅草祭 十八日 三社

梅若詣 十五日 順の峯入 道の

阿蘭陀 八津

鞆 鞆

春菊	東菊	犬櫻	長春	辛夷	葉柳	葉櫻
檜の花	金鳳花	金錢花	九輪草	木蓮花	李花	枣の花
小梅の花	仙臺款	茗荷竹	母子草	丁子草	小手毬	竹の秋
木瓜花	春蘭の花	蘓枋の花	通草の花	楊梅の花	杏子の花	林檎乃花

馬蘭	櫻鯛	櫻貝	柳籠	小鮎	八十八夜	山吹衣
若菰	上リ菜	鷹の巢	呼子鳥	櫻魚	三月尽	三月尽
五形	柳葉魚	郭公巢	雪小八重	炉塞	火燧塞	火燧塞
小米花	桜うぐい	鳶の巢	川跡鶴	火燧塞	火燧塞	火燧塞

春にわくる、春の限、春の海き、春に属る

春の隣、ゆく春、春に夕暮、春をこて

春の隣、夏をき、夏を待、夏を隣

夏、炎帝、帝祝融、神昊天、朱明、蒸砂

躡蹟

四月

仲呂、立夏、節小滿、中正陽、孟夏

余月、乾月、初夏、首夏、卯月

卯花月、花名残月、鎮月

更衣、百白重、卯のむ衣、春にこれ下、羊拾、終りき、終日

孟夏旬、一日天子より群臣の扇とく、各扇の形、各あり、筑摩祭、一日

獨あまのふ、卯のつ、扇の形、卯の氏子の女た、捲り、く、男の奴、はと

獨あまのふ、卯のつ、扇の形、卯の氏子の女た、捲り、く、男の奴、はと

神衣祭、十四日、麻績の連、卯の氏子の女た、捲り、く、男の奴、はと

葵祭、卯の氏子の女た、捲り、く、男の奴、はと

日光祭、十七日

地主祭 清上

和歌祭 紀及 八瀬祭 辰日

戒壇堂開帳 八日

嵯峨祭

水屋能 三日四日五日 南良春日

當六法事 十日

中将姫 忌日

千團子 十六日三井寺 鬼子母神請

花供 廿日 大野の

夜夜と 元勢

神祭 掛糸 林さん

三枝祭 南川

土塔會 寺 天主

松前渡 移之 鷹鳥時入

毛とが少くとも

郭公 子規 時鳥 蛸 夜たき鳥 鶴 鳥 不帰鳥 無常鳥

蝙蝠 蚊 蚊 蚊

蚊 蚊 蚊

螢 螢 螢

知の花 卯のむし

訪 眉 白筋

杜若 卯のむし

葵 二葉 日陰 葉

橘 卯のむし

牡丹 卯のむし

花王

芍薬 卯のむし

夏木立 卯のむし

青麥

青麥 麦 麦

鮎 鮎 鮎

短夜

短夜

大矢数

青東風

和清の天

新茶

黄酒

岩梨れ花	黄櫨の花	若櫨	笋
志の絲	石薺の花	蕪椿	すまのこ
蓮若葉	枳殻の花	蓼	きししくのむ
蓮のうゑ	厚朴の花	落	利根草
蚊帳	椶櫚の花	紫蘊	紙帳
とくてもうけ	柑子の花	檳柑の花	九年母の花
橙れ花	金柑の花	雲州櫨れ花	

玉巻葛	玉巻芭蕉	古茶	蘭の花
罌粟れ花	綿種蒔	花柚	鴨足草
栲の実	ぬきうす	薔薇	苔れ花
桐の花	あぢあぢ	岩藤	柿の花
茶引糸	うはち糸	一八	手毬花
風車	わうちやく	鸞尾	りく糸
まぶす	苴の臺	踊花	竹の子

百草と戦イロクノの葉と合イロクノ

騎射キヤ五日七道の馬子つういキヤお籠束のキヤ

水馬スイバ五日ぬ平せとるよてスイバお後と事スイバ

皂車ソウシャ同船のソウシャ

印地打インヂウチ

賀茂の競馬カモノケイバ五日くくカモノケイバ

住吉御田植ズキミタウエ廿八日

生玉流鏑馬イクタマヤブサシ五日

伊勢山川祭イセカミカハマツリ八日イセカミカハマツリ

山田御田植ヤマタミタウエ同上

有無の日アリムナノヒ廿五日アリムナノヒ

伊勢山川祭イセカミカハマツリ八日イセカミカハマツリ山田御田植ヤマタミタウエ同上イセカミカハマツリ

寂勝講サイショウコウ清涼殿セイリョウテン

有無の日アリムナノヒ廿五日アリムナノヒ伊勢山川祭イセカミカハマツリ

祇園御輿洗ギンノミタウエ晦日夕ギンノミタウエ

帷子カマエ裕帷子カマエ

夏至夏至五月の中夏至

寂勝講サイショウコウ清涼殿セイリョウテン

十二日目十二日目

夏至夏至五月の中夏至

半夏生ハナツナマ夏至夏至

五月雨五月雨さうらびやみ五月雨

入梅イロヒ梅ウメ梅ウメ

青梅アヲメ梅ウメ梅ウメ

五月雨五月雨さうらびやみ五月雨入梅イロヒ梅ウメ

羽ハ好コトけケるル法ホウ老ロウ毛モウとト

黒鴨クロカモ羽ハ好コトけケるル法ホウ老ロウ毛モウとト

蟪蛄クダマシ故コトのノまマのノみミのノまマのノみミ

鶺鴒セウリン舌ゼツとト去サぬヌえエのノ舌ゼツのノまマのノみミ

百合 あやめ 花あり 姫ゆり さくら

田植 あさき 苗くまう 子乙女

早瓜 あさあがり 白あり

鏡響草 あやめ 花あり

末摘花 あしひら 紅の 金銀花 あしひら 冬

蝸牛 あしひら 花あり 獸狩

照射 あしひら 花あり 照り

麥刈 あしひら 麦切 麦わら

覆盆子 あしひら 花あり

紫陽草 あしひら 花あり

忘草花 あしひら 萱州 真菰刈 あしひら

標 あしひら 花あり 菖蒲 あしひら

鯉狩 あしひら 花あり

入梅 あしひら 松 あしひら 花あり

石菖 あしひら 藻の花

夏菊 あしひら 藻と刈

枇杷 あしひら 藻川舟

若竹 あしひら 藻の花

天葵 あしひら 菱の花

天南星 あしひら 南天の花

早松茸 あしひら ひもじ花

早初茸 あしひら こぼれ花

生胡桃 あしひら 下置れ花

青山椒 あしひら びんじ花

入梅 あしひら 松 あしひら 花あり

蒼木焼 あしひら 花あり

榎の木焼 あしひら 花あり

繭 <small>カイコ</small>	胡瓜 <small>キウリ</small>	青田	若草 <small>ワカキ</small>	根菜 <small>ネモノ</small>	刈葱 <small>キリネギ</small>	茄子 <small>ナス</small>
柀時 <small>キヒ</small>	稗時 <small>ヒヒ</small>	田舎取	洗毛 <small>シモ</small>	榊の花 <small>サカキ</small>	茨の花 <small>アザミ</small>	栗の花
玉簪 <small>ギョウオン</small>	荏苒時 <small>エヒ</small>	粟時	青小豆	朝露草 <small>アサロコ</small>	花菖蒲	桑の實 <small>クワノミ</small>
そと屋 <small>ソトヤ</small>	胡麻時 <small>ゴマ</small>	馬齒草 <small>ウマヅメ</small>	まごころ	和布と刈	花柘榴 <small>サクラ</small>	六月法 <small>ムナシ</small>

黒毛 <small>クロモウ</small>	蠶 <small>サシ</small>	莧 <small>カサ</small>	鮎 <small>アユ</small>	藥打 <small>ヤナヒ</small>	梅花 <small>ウメ</small>
白毛 <small>シロモウ</small>	蓴 <small>カサ</small>	水鳥の巢 <small>ミヅトリノネ</small>	螳螂生 <small>カマキリ</small>	水麩 <small>ミヅウ</small>	蚊帳 <small>カマキリ</small>
沖のまけ <small>ウチノマケ</small>	鳧の羹 <small>カサ</small>	鴨の浮巢 <small>カサ</small>	蛇衣 <small>ヘビキヌ</small>	水鱧 <small>ミヅカマ</small>	合歡 <small>カマキリ</small>
白くろ <small>シロクロ</small>	毛 <small>モウ</small>	蠅 <small>ハエ</small>	蟬の初夢 <small>セミノハツユメ</small>	水雞 <small>ミヅトリ</small>	あしめ川
				干鰓 <small>カマキリ</small>	

六月

林鐘律 小暑節 大暑中 季夏 瓜期

旦彫 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節一日 氷の貢 氷室 氷餅祝日

一夜酒 麻地酒 麴粉酒 富士詣 一日ヨリ 坊離

六月會 四日 天台宗 祇園會 七日 神社より白糸系社の清涼水と神輿

御躰の御卜 十日 神社友の友人 玉餅に清涼

津島祭 十四日 舟を繋ぎて掛新 勢田祭 十四日

嚴嶋祭 十五日 竹生島祭 十六日 博田祭 十六日 江戸山王祭 十五日

御手洗詣 廿日ヨリ 鞍馬竹切日 廿日 伊勢祭 礼日 十六日

愛宕千日詣 廿四日 大坂座祭 廿二日

賀茂水無月之能 卅日 橋立祭 廿五日 住吉御後 卅日

唐崎祭 卅日 施米 東山北山西山をめぐりてのたづねのまじりの

小蠅あひ神 大いそのまはらゑん鬼のうけに宿りて

大枝 卅日 後門

夏らしくへくをくくみるの秋
あふこの秋はけしひ系

形代カクシ川後カキの形を似り月
あはれは只をまじりて

撫物ナデモノ日
これとくくする物

夏神樂ナツカミナリ
あはれをくく

三伏サンフツ
夏の後の後身より庚の日と初
伏の初の日と庚

涼スズシ月涼スズシ涼スズシ
あはれをくく

京四条の涼キョウシヤウノスズシ
七日ヨリ川の中お涼とあはれ
十八日テ涼と補抄あり

川社カハヂ夏後ナツノチ川をり初とあはれ
作とあはれ

菅貫スガノリ後之ノチ具也
茅の輪カヤノリあはれ

鎮火祭チンカサヒ北日キタヒト初日のあはれ
火除除のあはれ

雷鳴カミナリの陳チン雷をくくあはれ
大物以下初来のあはれ

座頭涼ザトウノスズシ十九日
あはれ

紅ベニの涼ノスズシ十九日
北日マテ

江戸兩國橋の涼エドニクニノスズシ
あはれ

嘉定錢カヂヤウセン十六日
張儀天台階絶の附定の如定緒十文と云
此日併供と後くま例とある

簞タタ淨スガ蘭ラン産サン脚馬ケウバ抱ダク竜リウ
竹夫人タケノオンナ涼の夏と云

扇アヒ五明イモウうらみウラミ雉尾扇シ扇車アヒ
あはれ

心太ココロ太タ太タ
あはれ

清水スミズ汲ヒキむきムキあはれ
あはれ

楮コの花ノハナ紙カミにニあはれ
あはれ

泉イハ殿テン滝殿タキテン汗アセ汗アセあはれ
あはれ

土用干ツヨウノカ虫干ムシノカ團ダンあはれ
あはれ

井イ井戸イダ凌リョウ大ダイあはれ
あはれ

麻アサ引ヒキ青アヲ苧ソ夏引糸ナツヒキイト
あはれ

瓜ウリ替カ天テン瓜ウリあはれ
あはれ

瓜ウリ替カ天テン瓜ウリあはれ
あはれ

瓜ウリ替カ天テン瓜ウリあはれ
あはれ

夕顔 テウヒヤウモク

撫子ナシの花 石竹 ところらの花

蓮 ハス

荷葉水芙蓉 荷ハ葉ハ 白蓮 蓮ハ花なり

蓮の実も夏

百日紅 ヒヨドリ 海松 ウミマツ 荒和布 アラワフ

射干 カサネ

蝉 セミ 移り電 ヒバリ 花 ハナ

夏虫 ナツムシ

蠟 ロウ 蠟 ロウ

神鳴 カミナリ

夕立 ユキダレ 蒜根 アヒ

青瓢箪 アヲヒヤウタン

南瓜 ナンプウ

江戸初鮭 エドノハツサケ 六月十五日と瀬川相及り

夜鱒賣 ヨルサケ

せご セゴ 膾 カイ 大星の魚 オホホシノイサ

沖膾 ウキカイ

陸を臨海 リクヲリンカイ の魚 ノイサ

上州新絹 ウヅマキ 中旬

石尊若離 イソノニギハヤヒ

石尊赤 イソノニギハヤヒ 六月廿八日相及大山不動

綿の花 ワタノハナ

極暑 キョクショ あつき日

醬油造 カシヅク

その日

納豆造 ナトウヅク

むと物

青蕃椒	蒲の穂	白麻刈	藍と刈	菅と刈	蘭と刈	菱の花
扇の尾花	けりこ糸	麒麟草	昼顔の花	竹の皮抜	奈良漬	醬造
水飯	葛水	藿乱	風薫	温風	日傘	日盛
洗ひ飯	砂糖水	香薷散	水吐粉	振舞水	麻羽織	麻頭巾

赤草	林檎	鷹羽	青鬼灯	干飯	夏枯草
早桃	澤泻	杏子	鳥糞搗	道明寺水	茗荷の子
楊梅	風蘭	河竹	杏	洗鯉	洗鱸
眼皮	凌霄	李	鷺草	雲雀鷹	金龜虫

精銳

夏の別

夏果る

夏の限

夏まで

秋を隣

秋をき

こぬ秋

秋を待

秋

少皞帝 金商

葍收神 爽頼

旻天

白蔵

七月

夷則律

立秋節

處暑中

孟秋

桐秋

初秋

首秋

明景

桐月

文月

蘭月

女郎花月

七夕

七日御節會

硯洗机洗

七度食

星の手向

詩哥連能七夕會

三三

星彦星

とり一妻

犬飼星

あまの川

星の契

あまの川

銀河

銀浪

銀漢

の川

星合の濱

か

の橋

雁鵲

紅糸の橋

妻迎

船

乞巧奠

乞巧針

七孔の針

糸と色

糸と色

糸と色

七種

の船

若草の心

女房の心

若草の心

若草の心

七

七

七箇の池

七箇の水に
星を移し

飛鳥井家七夕の鞠

池坊七夕の立花

荷前の使天子より諸廟
勅使立

文殊會八日 六道参九日

清水十日詣日 楨買六ヶ条のたき
洞と冥柳の飾

五蘭盆盆供 諸寺施餓鬼一日より
十五日を

梶比葉七夕のふりかき
もよおし

御門跡篝花もろこし
他物あり

摂待門下蒙りしり
此來の入りあきま

逆の峰入本山七月
當山八月

聖靈の迎鐘月上

焰魔参十六日

盆市聖霊蓮
聖霊竹

芋売 土器
手向物豆

むらひ火焼

靈祭聖霊棚
手向州

王棚 棚經
蓮花 蓮の葉

根芋 枝豆 青さけいぐさり 青柿 青梨 青桃 菰尾草
粟穂 桿穂 稻穂 瓜の馬 茄子の牛うけをりめん
かきり箸 青櫃

燈籠きりり
おろり 燈籠おろり
おろり

送り火鹿ヶ谷ハ
松ヶ岡ハ 大文字 愛宕 鳥井
妙法 舟岡ハ 舟形

三井寺女詣月

燈籠踊トッロ
トッロ 長谷 夏書納ケカキ
ケカキ

經木流

越目踊モク
モク 高松ヶ
松ヶ 中元ナカ
ナカ 七月 十五

盆のほり入伊勢山田
おのり

扇置アキ
アキ 扇あき
あき

生身靈イハ
イハ 打替おうち
おうち 打替おうち
おうち

新編の奏 十六日 貢物

小徳 奏角力

踊 小町をり
いせおさう

かけおさう
きんりおさう

相撲 口をすすまふ
園に丸園

一葉 相のまふり
系不為

萩 ちぎあふ風
けつ端のおき

のりおし 萩

萩は多つては
萩は多つては萩を
萩は多つては萩を
萩は多つては萩を

萩をよ本末より
萩をよ本末より

筮萩 百元萩

一株に百本つ
一株に百本つ

薺 牽牛花
朝白

槿花 百本の

槿花 一日の栄る
一時の栄る

とんぼ
女師花

花とにし 男良花
花とにし 男良花

薬師 柳 才切草

益母草 女花
益母草 女花

桔梗 けいり
桔梗 けいり

蘭 花
蘭 花

蓮の 実飛 蓮の
蓮の 実飛 蓮の

浦ん 花
浦ん 花

葉に 虫の
葉に 虫の

秋小 虫

虫 秋小
虫 秋小

蓑虫 鳴
蓑虫 鳴

イナコ 田中

蠶 蝶 秋の
蠶 蝶 秋の

蛸 秋の
蛸 秋の

秋の胡蝶

てのふまきを結ひ

秋津虫

こんがうやんやん

虫

虫撰 虫合 虫籠

秋風

初風

鳥屋出の鷹

鷹の山初鷹

露

初露

鳩吹

鳩の吹

今秋の秋

新涼

早稲

早稲のそや早稲

新涼

初て涼

涼酒

今秋の秋

饑暑

冷酒

青蕎麥

冷麥

める麦

あつ麦

常山の花

西瓜

木瓜の実

鈍豆

くさじの虫

番椒

桃の実

犬子艸

小車花

柳散

黄柳

芭蕉

茗荷の花

桐

葉のむ

あつ麦

鬱金の花

萩

焼米

やいぢ

やいぢ

蟹

垣豆

すまふ葉

すまふ葉

花火

三十八

槐花

綵瓜

觀音草

茶調虫

負別當也 紫葛

八月

南呂律 白露節 秋分中 仲秋

壯月

桂月 竹春 朏月 葉月

鴈来月

秋風月 月見月

八朔 繪行器 練雀

田面祝

田実祝

天中節 朔日 秋社 秋分近き戌の日なり 五穀の神と祭る

堺天神祭 三日

北野祭 四日

白鬘開帳 五日 八幡祭 十五日 放生會 十五日

鶴岡八幡祭

阿野津八幡祭 十五日

豊浦八幡祭 十五日

箱崎八幡祭 筑前

宇佐八幡祭 筑前

深川八幡祭 江戸

志賀八幡祭 筑前

菅大臣祭

板鼻八幡祭 上州

瓜活杖乃祭 筑前

瓜活杖乃祭 筑前 瓜活杖乃祭 筑前 瓜活杖乃祭 筑前

種瓢箪

牡丹の分根

稗刈

種夕顔

多れ色付

稷刈

種南瓜

こらやくり

芽萱

種茄子

くらり引

薬堀

鳳仙花

曼陀羅華

茜堀

鶏頭

百部桂

鷄草

金剛草

蕎麥の花

野菊

百夜草

やうりめじ

鬼灯

鴨上戸

木犀の花

縷紅

若菘若

うるゝの花

通草

木芙蓉

束

のりやび

冬瓜

大豆引

小角豆引

三七花

江鮭

かゝり鳴

太刀の魚

竹の春

初汐

野分

片たぬ湯

花壇

砧

霜降

素秋

九月

無射

寒露

霜降

季秋

玄英

季商

紅樹

菊天

素秋

舞射

残秋 末秋 玄月 晚秋 涼秋

菊月 陰月 杪秋 ちの月 ねさめ月

もみぢ月 木深月 木末の月 小田刈月

重陽の宴 ナヨウヤウ 九日 重九 菊且 菊節句 菊酒 重陽 栗且 栗節句
菊瓶 菜蕪袋 落帽 ちんちめ酒

九日小袖 菊重衣 紅葉衣 紅葉のまき

足袋をき初夜

桂宮相撲 八日 泉涌寺入舍利會 八日
目錄小して祖稅が ちんちめ酒

後之雛 野今のひふ
不堪田の奏 是ハ諸国田の 損との所を

醍醐祭 九日 能あり 御香宮祭 九日 伏見 鞍馬祭 廿日 貴布禰祭 廿日

生玉祭 九日 大坂 四宮祭 九日 大津 下鳥羽祭 十日 例幣 十日

白川祭 十日 岩倉祭 十五日 北山 栗田口祭 十日 一宮祭 十五日 河内

岡崎祭 十六日 東山 木幡祭 廿日 鹿谷祭 廿四日 逆髪祭 廿日

北山祭 廿六日 鳴瀧祭 廿八日 津村祭 廿七日 津国

天王寺一条會 十四日 太秦祭 廿日 小倉祭 十五日

八幡花の頭 廿日 つらつら 天満鎗流馬 廿五日 大坂

吳服祭 十七日 津国 波利祭 高辻 室町

杉川乃江後

度會新嘗會 九月十六日 十七日

伊勢御遷宮 十六日 廿年 目御社立替 夜分也

神田明神祭 十五日 日蓮御難比餅 十三日

住吉の市 十日 升の市 住吉孔相撲 同上

後の月 十三夜 二夜月 豆名月 月の名をく 菊 菊合 目精 更生 濡裳

こより菊 醉楊妃 羊飲 回峯 女郎 周盈 才の菊 金目貫 白菊 貴菊 紅菊 袋菊 夕の菊 大般若 弟艸 翁艸 砂金 毬菊

残る菊 十日の菊 残菊の宴 承和菊 黄菊

紅葉の花 色あはれ 秋 多くはさるるも秋 楓 色見艸 紅葉の船

名木散 萩葉よもぎ 正 すすきの いてる 銀杏

柚 木 林 申持 本は 材

さぐき

柘榴

苑豆

桐油の實

ひよん

胡桃

漸寒

露時雨

ぬんろう

露霜

露寒

将寒

霜踏鹿

夜寒

冷ト

長夜

新蕎麥

紅葉鮒

うきまき

おき

葉薑

檀

標

標

狼獸と祭

榧

柞

蕨

魁越の鴨

熊栗れ柵櫓

何首烏

菫蕪王

薩摩芋

木欒子

梅嫌

蔓梅嫌

晚稻

櫓田

小瀑江鮒

新酒 中波 古酒 葡萄酒

袂

番船 番綿

上方の船は標榜の初着をいつては人へはと

茶々興祭

茶を煮て飲ぶ事四くしてわき水興とくうかひき

住吉れ神送 廿日

九月尽

暮秋

秋のそと

これの秋

秋より後

初秋

秋果る

秋の名跡

秋がしむ

冬と隣

冬

羽音

顛頊帝玄冥神律檀

上天

元英

十月

應鐘律

立冬節

小雪中

孟冬

折木

初冬

玄帝

泰正

上冬

始氷

方冬

新冬

小春

亥冬

早冬

かゝれ月

玄陽の月

しゝれ月

初と初月

神無月

伊弉册尊神あづりましり、陽たうは月夜を神月とてふ
今後作せむとのち秋とついでひ出せむとて神あづり月
と云せむがを用
ふまうせがく

神の旅

神送一日

神の留主

神集

大社の神事

中ノ亥
出雲

神立風

宇津田神

下元

玄楮の餅

初の亥の日
子孫あふまはるるを
子孫あふまはるるを

初氷

葛かき

綿子

袴ひら

寒菊

菊うら

足袋

あがりすけ

鴨鷹

鶯のうら

石落

革羽織

鰯

茶のむ

山茶花

冬木の櫻

鰻

冬牡丹

八手の花

枇杷の花

飯花

何れをも冬咲と
かつりもかき

菜ゆら

かきる 掛衣

蕪引

大根引

納豆汁

水漬

冬木のまき

あがり

風木枯木の風
冬木のまき

枯野

あがりも木

落葉

あがり葉 うちら葉

川音の雲

ねんね

霜

あがりねんね ねんねのむ

月のあがり

あがり

初雪

あがりあがり

液雨

あがりあがり

水鳥

あがりあがり

鴨

あがりあがり

千鳥

あがりあがり

鶯

あがりあがり

あがりあがり

あがりあがり

三十一

生海鼠

このころ

網代氷魚

夜興引

妙音講

諸国座頭の祭也十月十四日一郡一の座頭仲間寄合官列とて一弁天妙音井

の尊像とうけ種々供物と備へ順番に
平家おととをかくる通夜すま

十一月

黄鐘律

大雪節

冬至

中正

朔易

霜晨

氷壯

星紀

畧知

芸生

宵氷

仲冬

盛冬

冬半

陽復

子月

鴨月

復月

霜月

天正月

霜降月

雪見月

朔旦冬至

十一月朔日冬至るれはるき十年のる

一陽佳節

十月無陽の月として冬至より一陽來復

曆の奏

宮線と添

系とひて日の

履と献唐を奉る

相嘗祭

住吉 大神 咒師 鴨 恩智 意富 葛城

新嘗祭

の初穂を 天子より

豊比明の節會

中辰今年の新米神

奉り 天子も召れ臣

殿上の淵醉

中忍

長臺の試五節の舞と御覽

童女御覽卯日清涼殿童女と召れ御覽

鎮魂祭離魂と

空也忌十三日 鉢扣佐餐と

大師講廿四日 報恩講ホウオン

向宗祖師親鸞上人の忌日十二月廿八日

の間大法事あけくさるる

芝居井 顔見世朔日

髪置十五日 袴着同上

雪六ツのむら 雪車雪の上を

棧雪古 綱貫同上 雪垣雪半

雪車雪の上を

雷あか 雪吹吹 氷氷 霰霰

氷柱銀竹 寒苦鳥羽冷 氷氷

鯨鯨 鯨船鯨 鯨の舌と

杜夫魚杜夫魚 玉子酒玉子酒

菜冷菜冷 湯豆腐湯豆腐

鮎煮凝鮎煮凝 蒟蒻氷蒟蒻氷 風呂吹大根風呂吹大根

かき祓祓ふ 早哥サカ

法ホウ子シ紀キ著シヨウ 是コト水ミヅはハるルに

小前張コサエハ こコ一ヒト年トシまマつツるル 志シのノやヤ 比ヒのノあアるル

御火焼ミホヒヤキ 儀ノまマあアりリとトいイふフ 儀ノまマあアりリとトいイふフ

新玉津島御火焼ニウタマツシマミホヒヤキ 十月十日

三島酉ミツシマウのノ市チ 十月中西イヘ

日吉臨時ヒヨシリンジ時ジ 中西イヘ

採物哥トウモノカ 拵ノみミてテぶブ 拵ノみミてテぶブ

大前張オホサエハ 中ナカのノ志シをヲあアらラせセるル 井イ原ハラ地チ 井イ原ハラ地チ

星ホシ ちチのノあアるル ちチのノあアるル

御火焼ミホヒヤキ 儀ノまマあアりリとトいイふフ 儀ノまマあアりリとトいイふフ

宇賀祭ウカサマ 廿日 山神祭ヤマカミサマ 同上

賀茂臨時祭カモリンジサマ 下酉イヘ 北祭キタサマ

東三條御神樂ヒガシサンジョウミコカシラ 下卯イダ 大原野祭オホハラノサマ 中卯ナカウ 宗像祭ムネカミサマ 上卯ウヘウ

山科祭ヤマカササマ 上巳ウヘスミ 平野祭ヒラノサマ 上申ウヘウラ 春日祭カスガサマ 上申ウヘウラ 松本祭マツモトサマ 中卯ナカウ

當麻祭トウマサマ 中卯ナカウ 卒川祭ソグガハサマ 上酉ウヘウ 梅宮祭ウメミヤサマ 上卯ウヘウ 當宗祭トウソウサマ 上卯ウヘウ

中山祭ナカヤマサマ 上卯ウヘウ 松尾祭マツオサマ 同上 吉田祭ヨシダサマ 中申ナカウラ 日吉祭ヒヨシサマ 同上

園韓神樂ウヅマカシラ 中丑ナカウツ 大呂律オホリリツ 小寒節コサムイ 大寒オホサムイ 中ナカ 殷正イハダカ 季冬キトウ

十二月トウモロコシ 抄冬シヤウタウ 師走シハス 臘月ロウグツ 除月ゾウグツ 極月キョクグツ

日三

新月 残冬 三冬月 梅初月 春待月

乙子オトコ孔コ朔日オトコ

川浸餅カハヒキ朔日オトコ臘八ロウハ八日

温槽粥ユヅカ臘八ロウハ

事始コトハジメ閏東八八日ウツリトウ

御髮上ミカミ下シタ午日ウツリトウ天子テンシのノ御ミコ焼ヤキ

着駄キタのノ政マツリ

天智天皇御國忌テンチ三日

佛名ブツナ十九日ウツリトウ

加法カホフ糸イト天子テンシのノ御ミコ焼ヤキ

師走シロイシ大寒オホセムのノ日ヒ禁カサ中ナカ四方ヨコエのノ門カドにニ

土牛童子ツチウシのノ像ゾウとト立タチ陰陽師インヤウシとト立タチ也ヤ

榎梨乃エノ截キリ盃サカ寂勝寺シヤクショウジ灌頂カンテイ十五日

大德寺開山忌ダイタクジ寒垢離カンゴリ寒念佛カンニブツ

多オホシ々クニ寒曝サムシ餅搗モチツキ箕和田鯉ハシワタ

餅花モチバナ黄鉏ワウシ鶺鴒カサキス早梅ハヤウメ

早咲梅ハヤサキ庭鳥ニハトリ探梅タンバイ早咲椿ハヤサキ

寒造酒サムツクリ臘梅ロウバイ室咲梅ムロサキ孟宗竹モウソウタケ

早椿ハヤツバキ室咲椿ムロサキ寒竹子サムタケ年忘トシワスレ

歳暮市

年取物買

煤櫛

煤掃

古札納

星佛賣

年木樵

節季候

寶船賣

正月の飾物はる賣買とせられを冬

曆元末

弓矢羽子板賣買

節分

吉田の大移 節分

内侍所の御神樂

厄ごと

豆打

終指

厄ちしひ

大原雜候寐

追儼

衣配

小晦日

大晦日の夜先総乃

岡見

大晦日の夜蓋とせりし由に記さるに記せり

齋宮比繪馬

明松をいとあむ

和布川之神事

長門国とらやとら大明神 毎年大晦日の夜寅の刻に至りて漫々くら大

海くしや四方へりうれ屏風と立しし海底平々くらり神主たいまくらり奉れわくらる海海面汐みちてりくのとくく世荒海とあるよし

佳

日下

雜之詞

二季トランと争トラン句ハ雜也

花紅葉ハナベニ

寒暑カシヨト結句

飛花落葉ヒクハト續ト句

又四時シイシ不斷フツ物ハ雜也

松竹の落葉ラキハ

米 麥

豆

松の緑等

無名の虫ムナミ鳴ナハ

小鳥コトリ 秋アキ

松マツ冬フユ花ハ 桂ケイ秋アキ実ミハ

村雨ムラサメ

薄ハク夏ナツ 菱ハシ花ハ

苺イチゴ花ハ 夏ナツ

藻モ花ハ 夏ナツ

虹ニジ 初ハツ 春ハル

蓬生ヨモギ

神カミ 蛤カキ

淺アサ芽メ原ハラ

若ワカ角ツノ 夏ナツ 若ワカ葉ハ 夏ナツ 枯カ 冬フユ

菅スガ

真蔣マシヤウ

旱ヒナリ 電イナダガリ

豕シ雲クモ

清水シズミ 夏ナツ 結ムス

梅干ウメシ

蓑虫ササギ 鳴ナハ

梅漆ウメシ

玉虫タマムシ

梟フクロウ 鷺サギ

山鳥ヤマトリ

都鳥ミヤトリ

鰯ササギ

鯖サバ

鹽物シホモノ

鳥トリ 同ドウ

鷹タカの 時トキ

野鷹ノタカ

離鷹ハナタカ

離鶉ハナウズ

鳴ナの 羽ハ 盛セキ

梅ウメ 壺ツボ

梨ナシ 壺ツボ

桐キリ 壺ツボ

藤フジ 壺ツボ

鴨カモ 香クツ

舞扇マヒアキ

礼扇レイアキ

搗カキ 栗クリ

軍配イクサマタ 團ダマ

戸ドの 鳴ナ子コ

蜘蛛クモ 同ドウ

鼯イタチ

布ヌメ

布ヌメ 曝ササ

右大槩記之余準可知而已

追加

池上千部 長栄山本門寺 毎年三月十九日ヨリ 廿八日マテ

九品佛千部 武州世田谷領奥村 九品山浄真寺 毎年四月 三日ヨリ十二日マテ

海苔日待 毎年三月の内二日予門浦へ海苔おひくじくよふか田 ありひの時不川中日仍とよむる光と海苔日仍とよむる

○天象 月日星天うろりて二句去

天 大圓タイエン 碧落ハキラク 虚空コウクウ 半天ハナツク 月ツキ 異名月の都 委々出ず
日ヒ 金鳥キンウ 陽鳥ヨウウ 火輪カリン 靈耀レイョウ 星ホシ 北斗ホクポウ 北辰ホクテン 太白星タイホク 客星カクホシ 珠璣シュウレイ 旋頭星セントウホシ 銀河ギンガ

七曜 二十八宿 輶物 織女 各星之分也 日蝕 月蝕 天川

銀河 銀浪 七夕の時水辺にありて秋 又名所の時水辺に成雑七夕 ふうのうら 河内国に天川と云名所あり 銀河七夕の面 と兼ふ外の天象 二八二句去

○聳物 ぶらりて牙に二句去二句つゝ

雲 霞 虹 運氣 蜃氣樓 電 稻妻 夜分 遊系 陽炎 月の暈 富士の烟 淺間の煙 松竹柳草木雨等の烟 霧ハ聳物降物両用也

日二二

神樂

大前張 小前張 星記 阿知女 採物哥 里神楽

起請

誓紙 神文

おちろるる

丹後

かろく

神々鋪

伊勢講 太々講 糸宮

非神祇

惠方

年徳

男山

放生川

龍宮

橋姫

山姫

精進

佐保姫

龍田姫

○

釋教

三句去三句はく 一句うても捨る

諸佛の名

諸菩薩の名

佛祖の名

諸佛經の名

諸僧法衣

諸の室名

諸宗佛具

羅漢の名

諸山号院号

寺

門跡

僧正

念佛

舍利

精舎堂

上人

題目

數珠

伽藍

和尚

塔和讚

拂子

庫裏

長老

談義

經

木魚

方丈

僧都

法問

五銚

衣

眠蔵

熊化

論義

獨銚

客殿

笛

所化

灌頂

帽子

輪蔵

出家

鉦

観念

燕尾

行堂

鉢開	引道	諷經	血脉	坊	袈裟	主座
鉢香	塔婆	花足	坐具	衆徒	僧	座禪
同向	順礼	看經	持戒	禪定	入定	厨
卵塔	線香	五輪	生飯	天蓋	沙弥	頭陀
因果	錫杖	鉢扣	花曼	破戒	禁足	宿坊
六道	彼岸	常香	頓寫	護摩	素絹	沙門
地獄	石塔	柱杖	諷誦	尼	五戒	悟道

功徳	曼陀羅	三界六道	煩悩	碩学
非時	作麼生	薦僧	坊主落等の釈の詞	醫者の釈名
齋	結伽駄座	是釈二百去	諸職人の釈名	○兩部
流轉	補陀落	百万遍	法印法橋	林然も釈ありも二百去
迎雲	須弥座	佛	鐘	二句はく一りも捨ル
來迎			書記	
極樂				

非釈教

妓有 <small>イハ</small>	忘 <small>ワスレ</small>	指 <small>サシ</small>	陰 <small>カゲ</small>	振 <small>フリ</small>	白 <small>シロ</small>	手 <small>テ</small>
灰 <small>ハイ</small>	物 <small>モノ</small>	尻 <small>シラ</small>	口 <small>クチ</small>	野 <small>ノ</small>	十 <small>ジュウ</small>	枕 <small>マク</small>
占 <small>ウラナ</small>	怪 <small>ケ</small>	目 <small>メ</small>	吸 <small>スッ</small>	郎 <small>ラウ</small>	話 <small>ワザ</small>	枕 <small>マク</small>
惡 <small>アク</small>	心 <small>ココロ</small>	つ <small>ツ</small>	ぬ <small>ヌ</small>	口 <small>クチ</small>	繪 <small>エ</small>	戲 <small>ウタ</small>
州 <small>シウ</small>	心 <small>ココロ</small>	舞 <small>マユ</small>	い <small>イ</small>	舌 <small>ゼツ</small>	踊 <small>マユ</small>	女 <small>メ</small>
花 <small>ハナ</small>	占 <small>ウラナ</small>	水 <small>ミヅ</small>	水 <small>ミヅ</small>	流 <small>ナガ</small>	子 <small>コ</small>	下 <small>シタ</small>
車 <small>クルマ</small>	占 <small>ウラナ</small>	祝 <small>イハヒ</small>	揚 <small>ホウ</small>	目 <small>メ</small>	出 <small>デ</small>	焦 <small>カウ</small>
坊 <small>ボウ</small>	懷 <small>イハヒ</small>	離 <small>リ</small>	飛 <small>トビ</small>	色 <small>イロ</small>	合 <small>アヒ</small>	枕 <small>マク</small>
主 <small>ヌシ</small>	妊 <small>ニ</small>	別 <small>ワカ</small>	子 <small>コ</small>	狂 <small>キヤウ</small>	宿 <small>ヤド</small>	香 <small>カ</small>
落 <small>オチ</small>	執 <small>シツ</small>	金 <small>キン</small>	頰 <small>オモ</small>	袖 <small>スリーブ</small>	口 <small>クチ</small>	婢 <small>メカ</small>
私 <small>シ</small>	執 <small>シツ</small>	剛 <small>ゴウ</small>	指 <small>サシ</small>	留 <small>ル</small>	説 <small>セツ</small>	
語 <small>ゴ</small>						

人目 <small>ヒトメ</small>	千束 <small>チツカ</small>	後 <small>ノチ</small>	身 <small>ミ</small>	意 <small>イ</small>	立 <small>タチ</small>	都 <small>ツ</small>
忍 <small>ニグ</small>	束 <small>ツカ</small>	添 <small>ソフ</small>	焦 <small>カウ</small>	慕 <small>ボ</small>	名 <small>ナ</small>	衆 <small>シュウ</small>
ふ	文 <small>フミ</small>	湯 <small>ユ</small>	揚 <small>ホウ</small>	近 <small>チカ</small>	前 <small>マエ</small>	牽 <small>ヒキ</small>
手 <small>テ</small>	諸 <small>シヨ</small>	女 <small>メ</small>	屋 <small>ヤ</small>	海 <small>ウミ</small>	髮 <small>カミ</small>	頭 <small>カビ</small>
を	國 <small>クニ</small>	白 <small>シロ</small>	髮 <small>カミ</small>	さ	前 <small>マエ</small>	言 <small>コト</small>
を	傾 <small>カガ</small>	拍 <small>ヒキ</small>	切 <small>キ</small>	う	前 <small>マエ</small>	言 <small>コト</small>
を	城 <small>シロ</small>	子 <small>コ</small>	突 <small>ツク</small>	夜 <small>ヨ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を	町 <small>チヨウ</small>	結 <small>ムス</small>	密 <small>ヒソ</small>	這 <small>ヰ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を	名 <small>ナ</small>	ふ <small>フ</small>	通 <small>ツウ</small>	指 <small>サシ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を	人 <small>ヒト</small>	の <small>ノ</small>	若 <small>ニギ</small>	切 <small>キ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を	目 <small>メ</small>	神 <small>カミ</small>	後 <small>ノチ</small>	腕 <small>ウデ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を	の <small>ノ</small>	女 <small>メ</small>	家 <small>イヘ</small>	突 <small>ツク</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を	關 <small>セキ</small>	衞 <small>ヱ</small>		入 <small>イ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を				瘰 <small>ロ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を				入 <small>イ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>
を				瘰 <small>ロ</small>	言 <small>コト</small>	言 <small>コト</small>

子とわはるひ 仇くく 下紐解 身くく

寐乱髪 垣間見 近き

錦木 細布 後朝

空炷 額帯 後朝

虫の印 非意詞

佛日月星と祈る句 禪

髪 所縁 奥襦 櫛 三縁 鏡 枕 び女

中居 歎 宿執 夢 帯 半婢 乳母 泪

干詐 偽 後家 下女 袖局 天し女

早し女 瞽女 市女 賤女 字の文 旅の文

佛日月星と祈る句 禪

右のかゑは非とくも句ふよりゑに成へ

○無常之詞 并哀傷 二句去一句くも捨ん 教は二句去

鳥辺野 仇一野 劔の山 三途川 魂結ひ

灰人 灰寄 葬頭河原 白骨 髑髏 冥途

龕 極樂 中陰 忌中 厨忌 幽霊 人魂

追善 追悼

○述懐之詞 ニウキニウキニウキニウキ

寡 白髮 三輪組 ちぢりぬる 貧 浪人

眉の霜 侘 病人 苦 継子 苔衣 乞食

世と捨

非述懐詞

愚 賤 山賤 座頭 瞽女 柴戸 尉 翁

草庵 釣翁 賣炭翁

○人倫之詞 ニウキニウキニウキニウキ

祖父 父 兄 姉 我 息子 娘 婿 祖母

母 弟 妹 妻 子 孫 女房 伯父 甥

影夫親彦獨從弟伯母姪姑

聖賢の名 實名 俗名 僧法師の名

傾城白拍子野郎の名 此亦準一とあるべし

非人倫之詞

帝皇女 本院 新院 仙洞 太子宮

親王 門跡 大君 仙人 人間 一門 凡夫

眷屬 二人 三人 大勢 雜兵 衆生 典藥

水梯 本道 老若 鍼醫 入道 百性 旦那

敵 かくれ 俗 不仁 思同志 代官

目代 民 目付 留主 居 奉行 身 某 私

地頭 門主 橋守 門守 花守 山姫 寒山

拾得 僧坊の官名 釈祖師の名 俗官名

苗字 守の字 師 是等也

者 是等也 是等也

お教多あつる
りの思ふ

梁	床	亭	家
隣	礎	樓	屋
天井	塀	庇	宿
座鋪	鴨居	椽	菴
閨	鳴居	小屋	軒
玄関	棟	博風	書院
部屋	裳	爐	廊下
	闕	壁	寮
	闔	窓	圍

○居所之詞
之句去こ句はく
一白りても於ル

余ハ准一あるべし

居所用 在居不在お紙跡の

庭	翠簾	外面	村
暖簾	井戸	里	筑山
土蔵	井筒	坪の内	泉水
欄干	脊戸	泉	路次
町	簾	障子	疊戸
	鉤簾		

余を准一あるべし

柱 古書に非居所と云くも居るは用ひ
杖柱 檣柱 ちと居るありし

非居所詞

内裡

皇居

御所

非居所

市場

戰場

鞠場

等也

非居所

千里

邊土

市場

戰場

鞠場

等也

○山類之詞

一有之者二有之者

山峯

嶽

岨

岫

谷

峠

高根

坂

尾上

九折

山姥

山姫

瀧

山門

關

不破

葛城 カラスギ 久米の橋 名は

山類用 中山に於ては 山類用

岡嶋

岨

泊瀬

水邊 三ノ関

非山類詞

吉野

島國

瀧川

杉人

淡路嶋

三島

越路

仙人

山賤

瀧津川

氷室

山魁

山鳥

山桃

龍田川

山梨

蓬が木

余ハ消一 ちんてん

○衣服之詞 二句去二句行く 一有之者も持ル

裳カサ 小袖コソデ 衣裳イサヨウ 縹絆シロハシ 白無垢シロムク 被カサキ 袴ハカマ 袴ハカマ 布ヌメ
 襦ジュ 帷子カマビラ 紙子カミコ 衾フツ 襟カサ 褌フツ 褌フツ 布ヌメ
 單物ヒトモノ 袖口ソデグチ 浴衣ユカタク 衣紋イモン 産着ウツキ 羽織ハオリ 褌フツ

此亦不断是羽の物皆衣類也

非衣類詞

袈龍カウリウ 直垂ヒタケ 狩衣カキイ 素襖スオウ 襦ジュ 奴袴ヌハカマ 袍ホ
 大口袴オウチハカマ 襪ソク 小忌衣コミヨロイ 白弦シラヒ 緋袴ヒハカマ 經袴キヨハカマ

綴ツヅ 宿直衣ソクジキ 衾フツ 淨衣ジヨウイ 袈裟カサ 衾フツ 衣イ 兼帶カンオビ
 直衣ジキ 上下カミシモ 肩衣カタクサ 絆切ハシキ 水旱ミヅカミ 葛袴クワハカマ 水衣ミヅイ
 十徳ジュツク 篠掛スノカケ 直裰ジキ 居士衣コジイ 立付タツケ 襟卷カサマキ
 掲布カケフ 帽子カサ 袴ハカマ 野袴ノハカマ 紙羽カミハ 脚絆ケツハシ 股引マダヒ
 頭巾カシマ 足袋タビ 三尺手拭サンシヤウ 法被ホウビ 褌フツ 褌フツ 藤衣フジイ
 道服ミチフク 羽衣ハネイ 裙スツ 袴ハカマ 褌フツ 縹帶シロハシ 藤衣フジイ
 禊ケツ 素鞆ソウモ 右宜服ウチヨク 祭服サマエ 僧衣ソウイ 喪服モウフク 礼レ 服フク 等トウ 平ヘイ

生る用せらる物皆非衣類

○水邊之詞 このをこりけく

蛇籠	筏	津	淀	海
水筒	樋	浪	瀨	浦
濱萩	流	泡	沖	濱
海草	溝	潮	磯	川
須磨	井戸	汐	浜	江
明石	海士	沼	瀬	池
松島	漁火	杜若	洲	澤
		瀧	浮木	堤
		島	淵	流木
		橋	崎	湊

草蒲 貝類 釣具 魚の名 水鳥の名
 漁の名 船の道具 辛崎の二ツ松 蓮 萍 藻

非水邊詞

天の浮橋	室の八島	鵲の橋	憲の海
夢の浮橋	難波寺	布曝	蓮の上
白川の関	泪の淵	志賀の松	硯水
月の出汐	軒の玉水	かまひ川	天水
		三瀨川	岩解

佳

五二八

氷柱

宮屋

干魚

干貝

苗代

田

鹽

五十九

○夜分之詞

之句をよむはく

月

星

曙

宵

暗

簾

蚊

鼠

寐言

寐

枕

軒

炬

埒

晚

銀河

明星

日待

七夕

横雲

宿妻

龍灯

鵜川

行燈

初雞

規狩

寐鳥

燈籠

挑灯

燭灯

紙燭

燭臺

蠟燭

短檠

手燭

假寐

居眠

夜着

燈明

送火

杖々

深更

化務

幽霊

夜発

辻君

夜多嫁

蚊帳

草の枕

衛士の焼火

星とこゝろ

吐入

住吉の市

野の市

星月夜

野名

の時非

追儺

鬼中

除夜

大晦日

氷夜分詞

鐘

泊

電

礎

虫の聲

三日月

出ル

芦火

今日の月

朝の月

明

常燈

昼の月

六十一

影の月

夢現

夢幻

夕月夜

有明入

残月

余ハこれニ准シテ名ズル

○食類之詞

喰物

ト

飲物

ト品替りて
二句者二句法
一旬そも替ル

○旅躰之詞

各クありて二句者二句法
一旬そも替ル

門出

餞別

乘掛

輕尻

蒲團張

駄賃

木賃

跡附

水陳

旅籠屋

出女

駄荷

泊好

宿取

川留

○生類之詞

虫ト虫

鳥ト鳥

獸ト獸

同生類之句者
二句法一旬そも替ル

虫ト鳥

獸ト虫

鳥ト獸

何れも二句者
二句法一旬そも替ル

○植物之詞

木ト木

草ト草

同二句者
二句法一旬そも替ル

木ト草

竹ト木

何れも二句者
二句法一旬そも替ル

佳

六二

不高不低植物 木より草より竹より

藤 萩 櫨 茨 荊 葛 葡萄 薔 牡丹
枸杞 山吹 卵花 五加木

○書舩之詞 二句去二句作

文字の尊 書籍 文臺 繪 草紙 筆 硯
墨 頓寫 夏書 手習 朱引 席書 狀
手紙 文 玉章

○火舩之詞 二句去二句作

焔 煤 灯 爐 巨燧 火鉢 炭 竈等也
余ハ准一あふべ

○風舩之詞 二句去二句作

風鈴 扇 團 吹 芦の聲 杖より木あり
余ハ准一あふべ

○病舩之詞 二句去二句作

餘	小	迴	來	打	成	識
當	込	間	頓	浦	猶	次
事	振	遣	野	雙	子	音
樣	郁	吹	撲	上	虫	中
里	明	深	山	登	無	鳴
先	去	淺	心	止	殘	內
指	跡	比	待	吳	上	無
下	逢	聲	又	雲	憂	波
小	合	木	迄	草	請	並
更	相					

六十四

掛	忘	置	止	外	今
方	分	追	留	程	幾
兼	渡	多	通	邊	出
飯	割	音	外	經	入
侘	小	取	解	時	花
吉	哉	思	落	鳥	早
夜	川	押	路	遠	晴
遣	立	風	替	折	果
着	為	替	通	我	共
付	絕	通	我	共	張
就					

六十三

①木 際 聞 切 消 来 ②行 ③路 道
 水 身 見 皆 ④下 新 鋪 ⑤日 人
 引 ⑥木 物 持 ⑦住 末 捨 過 濟

○同字別唸

御酒 御田鶴 太夫 志賀 仙臺
 代官 関白 南無 防風 傘
 一 二 三 度 變 半 天 夜 半 筑 紫 紫 輕 重 車

代物 由来 行 撫子花 撫子春日
 戰 戰 中風 中 人の目 秤の目 今 日
 一町目 天目 如 此の如く 但し此も又字の出るらんあはるり
 あはるらんあはるらんあはるらんあはるらん

○付字之事

家ト家トハ物と雖も家ト家トハ家ト家トハ
 家ト家トハ物と雖も家ト家トハ家ト家トハ
 神ニ神子 呼ニ呼子鳥 乾ニ乾鮭 雲ニ雲見草
 朝ニ朝日山 星ニ星比目

蘭シヤク 蘭シヤク 奢シヤク 待シヤク 雞卵ニ 雞頭ニ 花ニ 紅ニ 紅ニ 黒ニ 黒ニ 蠶ニ 奴ニ

也いふうりても又字の出入り
よりく別吟ふゆい

○賦物之事

祖師貞徳法門多々申垂れハ後物の事連歌より
流き習ふ事あるとを来能流にあらむこのこと
我身より成りハ様徳りハたたく花の余あるハ花俳諧
之連歌中この月の歌句あるハ月俳諧之連歌の事

そそ帯の糸とちと綴り徳めりやハ平う流ハ後物
あるハいと正保三年丙戌三月十五日於花咲亭定
らぬと綴りても世とにふる事あるハ後物也
面白うりて抄ひたり花去蠶とのふ歌句の時
去の字あるハハ新めの文字と 蠶といふ字とを付不
何思と取へりハハ花皿 壺皿トあぬすりと好まぬ
梅何と取へりハハ梅蠶とあぬ訓言たると好まぬ

春の月一 春の二月月一 春の有明一 春の季一

以上四也折去夏冬同断

心の月 胸ハナの月 月次の月 真如シンニヨの月 月草

寺号ジカウ 山号 付字テモ 星月夜フセツ 星の光と結ても非月

月の雪霜氷秋也 月をうらむとつとする也 月の氷 秋也

月氷サニルとて冬 月凍サニル冬 月流 月さやう 種カッラカヤ

星の光ホ留秋也 跡る月 夜分但 星よりかて秋也

非夜分 月明果 月をあると 月をあると

月明入 月と祈 非意 月待雨

月讀神 月讀社秋夜分 夏の夜社霜月ニ成 夏非降

月の秋のまあるとを 非夜分

○花之部

花四也折二三宛 花の字 三句去 初花 待花

花靴カホ 花鯉カキ 糸花 花の魚カサ 花衣カモ 作花

紙花カミ 花栄ヤカ 花ののぎ 花の縁ジ 花乃袖

花の袂タモト 花真壺マッポ 紋の花モン 繪の花エ 詞の花コト

花の姿 染物の花 織物の花 花びらハナヒラ 傳のたねま 又縁のたねま

け敷植物に二句の花と云ふ皆春トハハ花ま 有れば

花皿 正花也 檜皿の時ハ 非正花え 乗時の の花との 花庭ハナニ

漱する縁ちりハ掛物に二句を 木のたねちりハ掛物に二句を 花神樂カク 花の香カ に袖の香 折去

花の匂ニホ お袖の の匂の 花の散ル りハ 梅梅の の匂の 糸の匂の 不付ハ 面去 月の匂ハ不地

花の匂ハ非風神 花の匂ハ風神

花に付ル 句 同 道具不 付ハ 六たとのたねと付 中と付と付ハる也

花に吉付付 付付 うハ 次ハ 寄付 花ハ にハ 花ハ 六ハ 寄付 花ハ 次ハ 次 次 次

付付 花ハ 次ハ 寄付 花ハ 次ハ 次 次 次

花ハ 次ハ 寄付 花ハ 次ハ 次 次 次

花ハ 次ハ 寄付 花ハ 次ハ 次 次 次

花王 牡丹

花の富貴 同上

花の隠逸 萩

花の兄 梅

花の君子 蓮

花の宰相 芍薬

六の花 雪

眺むる花 海棠

夕花 夕花

三の花 霜

未摘花 紅花

花うらみ 真菰

四の花 紫陽草

花がく

紅の売 銭の異名

いろはあまふ於葉

花 いとあんなる花 一 いと淋 一 いとありの花 一

花 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一

花 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一

花 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一

花 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一

花 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一

花 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一 いとあんなる花 一

推

たらしかゝきやうくろお
兄二才二面を

たま一林鐘
音の声

たまゆめ一紙とせき
のちこさあり

たま一あけ
あけとる

たま一薦の
あやめとる

たま二句
あやめとる

み二句
あやめとる

み二句
あやめとる

み一
あやめとる

み二町
あやめとる

わ一
あやめとる

わ一
あやめとる

わ一
あやめとる

わ一
あやめとる

な一
あやめとる

な一
あやめとる

な一
あやめとる

な一
あやめとる

ち一
あやめとる

ち一
あやめとる

ち一
あやめとる

ち一
あやめとる

あ一
あやめとる

あ一
あやめとる

あ一
あやめとる

あ一
あやめとる

あ一
あやめとる

あ一
あやめとる

や〜七のを 為る人 おや〜ぬ日あり

やよト云七糸ト云ニ これらうらうら ぬ やまあひの袖 山生に巻

やまうらもあつた 一糸のたのりき ぬ 一糸を ぬ おと

ま〜丸 一糸をき 早 一糸を ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ

ぬらうと 一糸を の ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ

中丸 一糸を の 巻 一糸を ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ

中子 一糸を ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ

中子 一糸を ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ

けぞ〜 一糸を の ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ

きれなく 一糸を の ぬ 一糸を ぬ 一糸を ぬ

下初の羽 二糸 花 一糸 け 一糸 ぬ 一糸 ぬ

ふすねの麻 一糸 の ぬ 一糸 ぬ 一糸 ぬ 一糸 ぬ

ゆ〜 一糸 の ぬ 一糸 ぬ 一糸 ぬ 一糸 ぬ

あ〜 一糸 の ぬ 一糸 ぬ 一糸 ぬ 一糸 ぬ

くそ 二言 為りハ 面去
えんハ 一縁色 宿縁 坊おる

あくはむ 一 二言 葉
あんハ 一 神 嫉妬のさき

てあう 二言 下の有てあう 二言
あハ 二言 二言 二言 二言 二言

あハ 二言 二言 二言 二言 二言
あハ 二言 二言 二言 二言 二言

あハ 二言 二言 二言 二言 二言
あハ 二言 二言 二言 二言 二言

あハ 二言 二言 二言 二言 二言
あハ 二言 二言 二言 二言 二言

あハ 二言 二言 二言 二言 二言
あハ 二言 二言 二言 二言 二言

さハト 二言 二言 二言 二言 二言

されト云 二言 二言 二言 二言 二言

さハ 二言 二言 二言 二言 二言

さハ 二言 二言 二言 二言 二言

さハ 二言 二言 二言 二言 二言

さハ 二言 二言 二言 二言 二言

さハ 二言 二言 二言 二言 二言

ゆりふてふて 二言 菊 六 折 去 ゆり 二言 菊 六 折 去 ゆり 二言 菊 六 折 去

ゆり 二言 菊 六 折 去 ゆり 二言 菊 六 折 去 ゆり 二言 菊 六 折 去

ゆり 二言 菊 六 折 去 ゆり 二言 菊 六 折 去 ゆり 二言 菊 六 折 去

み 二言 菊 六 折 去 み 二言 菊 六 折 去 み 二言 菊 六 折 去

三 二言 菊 六 折 去 三 二言 菊 六 折 去 三 二言 菊 六 折 去

一 二言 菊 六 折 去 一 二言 菊 六 折 去 一 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去 志 二言 菊 六 折 去

せー^二音^一せり^二する^一して^二音^一せか^一の^二音^一
 すー^二ん^一七^二音^一あ^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一日^一の^二音^一
 する^二音^一せ^二て^一して^二音^一す^二る^一の^二音^一ふ^二の^一ぬ^一
 すー^二ん^一の^二音^一あ^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一
 すー^二ん^一の^二音^一あ^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一
 すー^二ん^一の^二音^一あ^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一
 すー^二ん^一の^二音^一あ^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一す^二る^一の^二音^一

一文字七音去 訓音替り五音去 単編 獨本去

二文字五音去 訓音替り七音去 二の字ヨリ十の字ヨリ

二の字トヨリ 百子万 各音去 訓音替り五音去

春 字モ 季モ 五音去 四季 各日

意の字四音去 非意 意の字六音去

月七音去 月次の月の字五音去

花四音去 花の字六音去 残る花音 沙音 沙音

涉る草

涉る坂

秋九月十日の
菊をいふ

涉る菊

秋九月十日の
菊をいふ

涉る秋

初雪

初雪

初雪

初雪

歌二音三

和方の分

連歌

俳諧

風雅

侍

和歌

和歌

和歌

和歌

伊勢の國

いせ曆

いせ海

いせ程

いせ物

いせすり

いせすり

いせすり

いせすり

いせすり

東西南北

いせすり

いせすり

いせすり

いせすり

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

虫のあけ

虫のあけ

虫のあけ

虫のあけ

虫のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

春のあけ

四季

春のや無おのる影をさあつての道
娘を先へ一紙添へしつゝ
春の雪も秋の葉もさきりつゝ
かたきやや雪のころをさるる雪のころ

貞富

三物

里林へは六橋ふね系糸袴
衛門をささるる下戸の笑ひは
月の空一巻づつ巻おこ

貞逸

文佐

のまをさるる雪のころをさるる雪のころ

数句切字の事

かやぞうよめりありきり
さぞあそあれこそあふのふい
いさいざいの毛そもくはらうらぬ
らんえんせんきんいづ道いのみ
いづこいづこはぞあがあ
きりまほわりと早のぬ
むきぬぬ
あけぬぬ

李

李

隣りも二橋とすち柳うれ鳥山鳥水改 古竹のせりゆきけのね子新宿 勇
 曇りのみくろのしほ様や風光 善や若くままと箱流横壁 松雨
 人のおえくろそおの浦や掌を 夕宵や尾花の霞もと急小津 文哥
 目振るるれん先か雲が伴水 立秋や木も梓の糸又度長根 文貞
 遠来の肩もかきよに紙系小池氏 松童 梅うまや隣りくまを風の志馬庭 関山
 弟まかせくれ中へ雲系が風車 けくろの雲やこをけの聲岩井 琴山
 珠いりくろくろくくと牡丹や芦角 帰るぬ女の顔や百合の花全 淵柳
 鳥百合のなをとねての姿や翠路 七夕や鳥をまほく世の高悦西井 山

大名の目もかきよの八月や百枝 石川や沖ふちの流法を不全 芦英
 浪のや一日流ふ海の小津蓮舟 都くの梅の白ひや藤倉か 午雞
 一葉もく淋かきよ柳や秋空木山 梅咲や子巻れ雲全 文筆
 ねばるまきちかきよあはれ錦秋 雲霧や宵ふきまの果イセ奇 彩柳
 大名の衣目かきよの事柳や柳庭 惣糸の後さりりや雲の花全 花隣
 日向漕舟 務まればそや酒浪 乞食の果やお敷前ハ 池鯉鮒
 ありくえありくえふも雲や延山 桐中や木の葉かきよの鳥全 盛賀
 全 清涼不暑日かきよの市全 市寶

すく、癖あるはきりく改書八幡山 呂竹 暮りくおそけぬまを女江州 近山

首のむ、肉斗甲うら好竹 遊やそれ美のふる細小越後大夕 里風

将くと女、葉に葉地全 原月 夕やそをそて石がツラ 素兄

仍事のあふけ、況清もうる新宿 芦月 初枝や世に接れぬ全 蔭蔭 芦洲

白面にすおある、ゆり全喜水改 曉山 子と女や日毎くの縁お全 美次鳥

まゆれゆおそ地全 蘭思 我くく水のそりや新あめ上高 其國

思ふとくうのあふ全 柳糸 お傘の附あめ上郷 下原 主原

浪信ふあそとぬむ上寺邑 泉志 友信のたあふ月や上郷 地灯 月峰

ほき流のすもふ雲さ四間 管竹 月やあやけりく南都 白翁

遠ふれあふ地全 桐 白ひまのあふ千代見改 三聲

あやめあふ長根 桐 白ひまのあふ千代見改 三聲

あやめあふ黒熊 桐 群うとて流を砥ひ寺崎 虎山

あやめあふ宇賀 川龍 影月やちひの付金谷洞 友里

あやめあふ全 可水 森そむれと老の力や社香月全 万壺

あやめあふ上高村 山笑 初雪や若葉に暮れ友之 友之

あやめあふ日野印地 若元 茶茶接や所素石 素石

澄の香色結しとをるれなる^全用和
 早々の夕霞^全入むの^全物^全東川^全
 津福瑞^全扇が^全と^全涼^全南^全芦碩^全
 わる^全内^全中^全火^全煙^全ハ^全を^全と^全と^全なる^全友^全至^全
 世を^全と^全と^全世^全度^全き^全を^全存^全作^全又^全至^全
 伊^全之^全陽^全く^全あ^全ら^全ち^全を^全作^全貞^全宿^全
 高草 秀木

面^全の^全口^全の^全物^全の^全と^全と^全た^全懐^全筆^全交^全兔^全
 物^全鳥^全 九月^全と^全と^全六月^全而^全風^全車^全
 振^全袖^全を^全袖^全も^全物^全の^全や^全土^全用^全于^全其^全月^全
 初^全の^全を^全や^全や^全も^全も^全の^全や^全物^全魂^全其^全桃^全
 心^全の^全風^全の^全流^全や^全を^全と^全と^全作^全在^全木^全
 善^全や^全人の^全命^全も^全あ^全の^全内^全杜^全平^全
 り^全に^全推^全る^全世^全の^全灯^全や^全ら^全の^全菊^全未^全甫^全
 深^全道^全を^全成^全す^全よ^全居^全き^全を^全物^全也^全貞^全雨^全
 高草 秀木

む^全か^全り^全鳥^全の^全せ^全き^全山^全様^全平^全湖^全
 夕^全芳^全と^全す^全と^全名^全色^全し^全と^全存^全菊^全藤^全巴^全
 在^全を^全の^全流^全波^全ハ^全低^全杜^全亭^全一^全之^全
 心^全こ^全く^全く^全を^全を^全に^全自^全言^全事^全は^全竹^全志^全
 松^全影^全も^全ち^全り^全く^全暮^全の^全声^全 中^全貴^全 艷^全山^全
 秋^全津^全一^全嵐^全の^全み^全ふ^全枕^全も^全也^全 吉^全井^全 笠^全雨^全
 引^全結^全の^全足^全 吹^全流^全一^全和^全が^全流^全 重^全友^全
 お^全る^全秋^全の^全枕^全一^全水^全車^全 堀^全 竹^全雨^全

冬^全を^全と^全と^全葉^全の^全字^全の^全言^全に^全流^全を^全芳^全雪^全
 探^全干^全に^全布^全を^全ほ^全ほ^全は^全流^全の^全月^全 吉^全井^全 松^全庭^全
 味^全の^全本^全書^全も^全又^全と^全郭^全の^全橋^全平^全
 高草 秀木
 好^全栄^全
 高草 秀木

句

八十七

おとすおとす不白心一核棹東里
胡毒の秋も凍 小舟が 雞歌
若ふあはれあり 萩の後友之
風よりあつき 藤の表 芦魚

くろり

新田ふ久を付くろりかんをる 湖雲
お舟の帆波中より横雲 復児

あせり

残るに 雲の日に 来るうらり 松岸
梅の 園に 恨を する 舎牛
を 困て 庵の 風も なる 芦 夕

わり

尻を 山を 走る 舟の 舟 高野
お舟の 帆波 中より 横雲 復児
一所の 雲に なる 舟の 舟 扇志
舟を する 舟の 舟の 舟 扇志

まろしあそりおとすをばあはの山 稗
乃徳まのるを 傘乃の 和周
味しらの 秋も 秋の 瑞松月

いり

美しと 秋葉連の 音の 秀竹

まね字

菊と 同んは 秋の 秋空
お舟の 帆波 中より 横雲 復児

せり

尻を 山を 走る 舟の 舟 高野

まね

味しらの 秋も 秋の 瑞松月

やい

美しと 秋葉連の 音の 秀竹

まね

菊と 同んは 秋の 秋空

あせり

い

高井 芳柳

有隣

原翠

呼雪

里鶴

笠考

よ

高井 月

ぞ

東宇

乙山

の

延山

春且

繁柳

山 貴

而醒

壽保

切字おめでとあるきむ

負雨

魚

過改

豊東

ん

當屋

牛羅

年ぬ

延山

竹倭

一知

柯

紙海のちかかろ紀物し〜れ竹支
 多物ハ約ハせ〜中多文^{己女}紀撫
 得子ハ然と有のたろまこれ^{馬鹿}里水
 や〜もたはる今〜と中も家川^{熊谷}嘘夕
 以〜ぬ本屋のゆ米あま乃山至^今
 まこれ〜とろ六とれと初時面^{フ子岡}貞宿
 今〜い〜一〜花書ハ
 大〜も忠平ハ一〜書也〜

芳中入送れ様不風の祚^小其朝
 万物の方や〜中か
 こと〜のたはる〜と
 こと〜と〜
 こと〜と〜
 蓮葉や
 人の〜と〜
 貞桶
 柿の核

今〜時〜有〜の〜ま
 一〜と〜蒲巻〜し〜ら〜り
 多〜和〜を〜後〜し〜ふ
 珍和の〜あ〜ら〜ら〜か
 跡し〜と〜火糧に
 痛〜く〜と〜
 夏あれや
 夢中庵
 笠翁

己〜と〜あ〜ら〜ら〜ら
 多〜と〜と〜と〜と
 け〜ら〜ら〜ら〜ら
 猫の子れ
 多〜と〜と〜と〜と
 全
 暎色
 せ〜ら〜ら〜ら

四季

船の灯のるをきあう一橋月佐野 枕流齋杜川

一樹の月ももよおしたる清き水

後夜燈のつらぬ助の出来ぬ

そよよとも松の海法師の歌

全

鳥の鳴き声のあつと暗柳の山 吳周

橋の影の移るもあはれの終り

全

こゝろをせめてもはるきくまのま 一徳

推のまや独りよはせぬてりそ

風はいつと夏鷹の佃子秋乃音

大石のふもとくまのくま大蛇

全

石の光のたつとあつと柳の 貞笠

一はつと夏の柳の夕の光

そよよや群のまよく月を看
昇はさひうおれとく香ヲチ輝

全

まじ女は流るらめいお汐干は貞國

子と抱て人の静やいよとよ

似てゐる風はくとして後の月

夜食お役者もゆかす香ヲチ輝

全

雪のやと白く別きておき
傘傍りくおとさつとあつと

全

まよのまよとあつとあつと石之

おとさつとあつとあつとあつと

おとさつとあつとあつとあつと

おとさつとあつとあつとあつと

全

口にて拾成る汝丁の如芦邑
惟子の長むれ等やあゆみ
言白るむらむらう蕃椒
張きて傳子の多き一を従

全

伊勢ある一七十六由御所貞川
湯場やあゆむるむれ古社
秋野を宿るもあゆみ魚女島

上州子岡

唯子とあゆみ懐のやまを
月をそよめけりてを後月
春の香自由のそよめけり

全

一弦子あり秋やあゆむる
おぬれたる塔屋上りさのむ
水山の老むるたはし初橋貞陸

下子岡

全

橋分群つ女飛鳥山芦相
白むや葉舟のかた橋柱
夕の秋松の指やあゆむる
秋引くは流をそよめけり

南窓亭

全

春新ハ其まうたまのゆめ
若本はあゆみあゆむる
秋文であゆみの渾むちもれ
おひらくあゆむるむれ

南見庵

全

おまをそよめけりてを
若きむらむらうの身

何州

全

秋いひをそよめけりてを
橋の尻とるむらむらう

中の香に木葉落る月老ふ
香のふや懐心移るよ一合

物秋の香を星の別きふ
初雪や雪のよく一合

三物

拾花甫

三物

一祖堂

まじりての秋葉と涙とに葉は貞里
ハカハシは月ハ遠きと
よき此所有とすも徳傳

いつく入きぬとまもよ上は杉戸
那方にそなる鶴のわすれ
秋と雪と秋葉とに思はせ

全

全

波城まじりてまじりて夜は花波光
森酒ハ薄み旅て凍る
水園の月を老子のまを寄

呵られる鶴とまをよと後の月貞行
秋酒の露の秋の吹き
一瓶のよ懐心移るよ一合

全

全

おわれ今住はくつるや麦畑桐船
竹を移るも葉秋と類枝
おれりお常へるを和はせ

隠るのや梅と花
花のりやうのがふを秋
葉の曲に香の雪ぬきのんて

全

全

多事やたのぬを柳の蔭今 芦雁
お葱菰乳母うぬいさる
葉のあましくぬしと翠しんた

全

多むに曲りけし初あり今 芦笙
体んくまの形も怪し
月と竹葉の煙海も深て

全

山家の月とれ初とる初の日今 弘山
此つけるにたきあれた虫
あまの秋の夜をよきと

全

二人来て初らん然れ物葉や桐栄
塩谷別たよきとまうく入梅
まうくとまうくとの節はそ

全

おむやまきもくれん益平 松閣
雲のま原ふまの陽楊
神の形もたえやうに持て

歌僊

風志

又後れけいかなるま由也
海をみる半の南に初蝶貞山
帝やと初人に無あうく常仙

舟と傳葛あのをやが長 芦魚
接弁のまうくまん
夕月の秋まきうけいさる

哥仙

二ツツツとと無味の鐘也友里
秋冬まきと睡のや 芦管
競れ初もまうく候のまはて 芦邑

あらねのちの鼻紙の常 有佐
 陸瑞陽も沙流不れせ海の月貞屋
 常の物来もおれの聖執筆
 ありあふとう海をの傍の常を先 貞山
 世も名をたし苗の一人 風志
 ありあふとくとおれを先 有佐
 かさるる血の泪をさう 常仙
 りせは緒をさうと後よ成 貞屋
 松崎しと村の子うも 貞国
 風呂吹に吹きそ月もわらん 芦管
 笑てと斗程あつたれ 友里
 女あふぬ非の移り 芦邑
 手紙と大書さきてすまう 友里
 け柳の流れ中にあふ 芦管
 りせは緒をさうと後よ成 貞屋
 女のあふぬ非の移り 芦邑

柏うけのちがくこの風 貞山
 川魚の骨をそらやの流るる風志
 百才あるはあゝの種物 有佐
 りせは緒をさうと後よ成 貞屋
 松のちを移れぬを移す達 貞屋
 ちかどお院が捌き塔の下 有佐
 月代がたく素風をさく 貞山
 園結の心をさうと後よ成 貞屋
 柳もあふとと妻老を拂 貞国
 母のわの森と常 有佐
 窓とをぬると大書さきてすまう 友里
 りせは緒をさうと後よ成 貞屋
 村のわを食ひ流のさえはり 貞国
 勅書はさきにを移す乃 友里
 月代のはさくしとく移移ひ 友里
 産の海へさうと古く 芦管
 学寮の影も移りぬる 芦邑

余
 一
 一
 一

二人南宮ふ渡世形のふ常仙	古里町へ寄つてゆゆゆ 貞国
面を此種もは流るる職の色貞屋	はくくともくねおれまきき 芦管
先をよけて繼由とよせ有佐	夏に流るるしゆあまの友里
津川もよひまきせは彼の契貞山	飛着の果々受くる又柳貞国
徳丁の教もたふは海鏡風志	彼面りもむくかうき 芦邑
ちんくつ種とはさきもまひん 常仙	うはまきりまうてあまらん友里
あて韓紙とめく相様貞屋	ゆきとあてくふく八放る 芦管
後留ふられんとせ何たかうこ有佐	はまきの種を新島名にまき 芦邑

佳と傳り合愛田子初常仙	六日の月のぼりまう初貞
月のあまそち地くの風有風志	相の紫と絶てあまの海七 芦管
味よわつらふ陣の懸貞山	志のふ旅夫の夢ひの海七 友里
美 ^秋 理くしれ流の挽あま貞屋	宵柳舎のむせり今を流るる 貞國
くくと志ぬるの侍抽有佐	まきも流るるあまの海七 芦邑
秋傳も又流るるむせり常仙	朝陽や紙跡の灯の氣流る 友里
ひ身に糸の纏る下流風志	酒て初る鹿鹿の種 芦管
あまのふしりこまのむせり貞山	あまのふしりこまのむせり 芦邑

各道へくむまの海との貞屋

哥仙

ぬちやけりかたのちうた貞國

哥仙

上村藤岡連

ふ依の又そちうの茶抄や一徳松のままにうてぬのたし貞川

料理の伊達と物人秘録芦翁 跡も後と年にかゝる橋 貞賀

厚抄のる巻更おのり 今 百姓の茶抄も儀せ茶抄お貞陸

角力と武ふお潤市のま花一徳 井戸を汐のふく西く 貞隣

はるれと水後其まきまの月 一徳 けき替て舟雲のゆの勢り貞宿

野方の後の初景ある 芦翁 湯と雲とをひむく天西湖

色うけまろれお老向ふ膳

膳けく膳る酒の魂一徳

やんりりと赤ふ鶴の口車

風にかまると油の後鳥 芦翁

おやまそのおまひかひお老

風をよくとむととくる 一徳

おんうまにちやうお老

まゝしやのうとく組あ 芦翁

縁にすう合傘の延りうり 貞笠

舟の網と移く漕くは 湖雲

借せぬあまの料理まじり 芦文

峠にのみあは口して封切 芦穂

お老と老とをよふ教書の橋 胡穂

あつと後ひ可くれてま 山埜

極先小陣のきり月味 霍山

疎くをいあんの大名 東川

後部との尾と信よのちとわ

秋やぬの影よ入つてを後一徳

探幽の夢勢とやうき月

秋ても風のかかり人ゆ 芦翁

雪玉の封疆て浦の曲うむ

あぐや八教のたをさる一徳

川舟のしりしと入けり

秋葉の境も能る鼻る 芦翁

る好の場深とくを幸七見且山

日ハきうりや泊種余周賀

浦風ふりぬれをけりむ 芦翁

筆の中うき幸此は多文里

まゐるに一枝極りをもけりて 芦遊

此を留ハ母乃就立貞陸

縁物に初す物とこの徳 湖雲

肝もは日る下一私宿貞宿

雪んとも必船の明を結る

量此れもきも鳴り乃を一徳

世渡のてをわがに国を信

確接ふ糸の末端

活名と人一語とを必き楽 芦翁

あふ糸くぬれぬに結とを

月夜不悦とをさるひ羽生

困極裏えき用の見巻一徳

しやうのえをた信と文 西湖

飛上るを伴勢接ふ 鶴山

内袖の糸結合照ぬるに 東川

後若伴談て留掛を 芦汶

石巻と二信は信ふぬし 周賀

あふ糸あまに別れをさる 貞川

修まふをさるうとをさる 貞隣

古竹抄の葉く物も本 湖遊

歌
あふこま澄せてゆめ抄弓

時と知らたあひ園両

まの判をばみかきか合者芦翁

あふあふとあふあふ一徳

秋ふふ七りり花のゆき翁

運指をのりかど果考

哥仙

上州舟連

夢とせふもあふあふむき翁貞笠

打出むらむ靴くも物ふ山璋

獅子の種代の時角を誇り夕

あふあふとあふあふ文里

あふあふとあふあふ且山

あふあふとあふあふ貞賀

あふあふとあふあふ貞笠

哥仙

あふあふとあふあふ貞鶴

怪子さりの破碑の机貞山

此合羽着うらなれ不福好和

あふあふとあふあふ松仙

あふあふとあふあふ里川

律のあふあふの低心懸筆

秋葉のあふあふ形不露と名

仕重のあふあふと持せり

あふあふとあふあふ松鳥

勢のすむあふあふの夜若翁

あふあふとあふあふ貞橋

あふあふとあふあふ貞園

あふあふとあふあふ貞雨

あふあふとあふあふ貞玉

あふあふとあふあふ貞翁

あふあふとあふあふ貞鶴

あふあふとあふあふ貞雨

坊むく町のあましくく吹里鶴	子あねの持へるく貞橘
徳道に本履とまゝ次苗自惚琴山	船の月形舟の澄む杜あ貞王
禿はさく袖の徳ひ淵柳	仙管まゆりまゝな得某貞國
かすのく只後ふりく月を青松仙	春の経の送老がかりと振る貞鶴
虫持ふ出で虫に拵ぐる好和	二階唐装へと子樹ま芦翁
り秋と若久戸の後加減貞笠	まげの春も心ま白拍子貞橘
杜山陽流のぬるれ八入桐翠	口と吸きて乳と引て見貞國
む登飛南洋人と連歩行里水	嬉しくはたきあひあむのあ貞雨

静く暮り八尋のまど執筆	やよいひまゝおびでうゆの芦翁
七アんの火の破の帯のま代書	琴山
花殺髪の新くくあゝく	松鳥
まぎくくまを後くくあゝ後ひ淵柳	うと雪き女術くあゝおびま貞雨
さゆり八花まのくまゝ横淵水	娘の春の割袴と持貞橘
一間は涼くさ後る春く里川	かゝる時と春の陸ハ雪みか貞王
あどまよ八道の紫うよん貞笠	乞食の歌く五橋の午貞國
あまを濁くまゝあおれり好夕	十分は菊も後りて後の貞貞鶴

夕影をよみたる半の月ありし里水

粟とちりしをよせしり 貞橘

あやもなき月ささむる田の香 桐翠

百姓の袖ふくくする秋の風 芦翁

うみ草の海をほぐれ乃に里川

お揚屋の笑顔見よ 貞雨

蝶の手を結ぶとくみきる 里霍

宝珠のまじりぬれ初れ 貞玉

ゆめの思ふを程りき 散淵水

竹輿て産後いある本令 貞國

糸合をたかきながれ 漕龍れ 桐翠

子乙女の一人は 来る時 貞雨

伊勢の海入とよむむ 友指 里霍

魁とあやぐよる 林崎 貞鶴

九茶本様と世もな人もま 淵柳

檀方れ徳と海と寄のり 貞玉

吐上るれ海よりとよま 松仙

風のふい貝海のちり 芦翁

思ふにむのちりしれありて 松鳥

糸ももて交へ海とあかの國 貞國

伊保姫犯りて後以 短冊 琴山

素紙をよみて 屋敷 貞橘

半哥仙

半哥仙

湯を鳴葉うらや煤のがれ 木春

糸ひかりの ぬき 山修九良 貞菊

百姓の地ハ 傳り 門 移 文 耕

尻むそくゆれつる 笠の上 芦翁

生枝の海雲にふつるを 貞里

巻他り 大工ふは 百千る

指しひおを 海を 通 禪 木 春

糸うのく 終 破る 糸 貞菊

名も虫とてましく 蟬 陽 芦翁
 影つそりと市の夕暮 柳子 従て
 箕あふす 後をよ 火に 荒 芦泰
 乙ケ月 小な 命より ぎ 小 蓋
 相棋の 望 味 秋の 懐 癖 芦翁
 淋しみの せきと ぼる 村 狂 紫
 桑と 輝 出 入 深 へ くの 産
 人 美の せきと づら じ 縁 衣 芦泰

柳のこすえ 揺ふ 秋 風 貞山
 月もまき 大 蓋に まふ じり 芦舟
 麴の まの まい 信 命 錦山
 名年 け 久の 物 子 ち 扇 小 圓山
 志 一 流 目 の の 心 閑 古 貞雨
 本 考 こと 和 者 舟 け 後 本 立 貞山
 竹 輿 と とも ち 匠 考 ぎ 毎 虎山
 大 志 と 産 考 と ち ち ち ち 錦山

名 理 小 法 ぎ 産 の 名 紫
 ぬ と ぬ の 目 後 口 を け ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 卵 卵 に 葉 の 陽 乃 ち ち ち ち ち
 ち 好 り 月 有 る も 然 ち ち
 う の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 絲 百 の 枝 け ち ち ち ち ち ち
 船 舟 の 舟 け ち ち ち ち ち ち

西 日 の 中 に 根 別 る ち 芦 舟
 吾 風 号 を 車 に 登 せ て 冬 暮 貞 雨
 秋 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 猫 人 の 地 獄 ち ち ち ち ち ち 虎 山
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 貞 山
 休 改 り 咄 の 橋 を ち ち ち 芦 舟
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 錦 山
 荒 法 法 ち ち ち ち ち ち ち 貞 雨

山装の是とある落電芦翁

半哥仙

福井の膳もえりや杜の圓山
朔翁も破れ地の虫一貞山
剃刀の紙もまろくと吸付天真賀
掃除仕意は保るを著桃里
冬圍月に際子もまれば虎山
指被結て目望なうらうら貞雨

か下とあるの彫る山門圓山

半哥仙

かそ今世の厚をほ梅の悪栄松
か海をくれば地窟うれ芦翁
枕も多船山の様うら楽園著て
葵もくく村井の裾栄松
すうらうらと一掃落て葉舞はる
目にたれ秋と下たのる藤芦翁

和風や秋のさしき松もすう貞山

春うら春の糸の宿の久圓山

ありてある田おおひ女の吉運で桃里

白ふゆあう以子代もろ松貞賀

むう身の奈納めは有る山貞雨

ぬと勝るもむすう久虎山

まねおまおのまねうなまき貞賀

吐する蝶もむらふ夕月桃里

竹

雨

晴の巻のりるそ目と見る 虎山 井戸場うね筋とある巻の巻
お海人お折足しときる 貞雨 和光の巻と巻は飲喰栄松

芒巻竹時のもどカクを 圓山 河車と一枚あまふむの山芦翁
地の南につくむ糸松貞山 これも福寿の種のあま栄松

半哥仙

夕阿改

巻巻の巻の由く九巻ふ米成 百姓の夕飯時と月名ふ素勇

か〜捲きあふる松の風 風のゆる見れつる提並

標のゆる〜願ふちあ〜

半哥仙

林氏

子傳をれ十かに帆とよて

ち刀折のよれ脂きりり

むよりと来て飛越す月の涼

かろ牡丹は若竹のよ

遊れ〜我おは〜や海〜

ゆとゆよ〜舟あ〜

程然の袂布かめ目新井

る袖と〜て縁巻と〜

蝶おれし茎葉のま〜ハ

唯唯のゆる人の大抱

き丸め〜舟の後の熱〜

扱もよ〜に付〜

紫田の内〜

乳母に〜

断〜のゆる〜

燃ぬお〜

木おと〜

あつたきり多うくぬれ
お陳お江戸は東の幕も
もぢふおそりる金沢の
浪お揺お揺て涼む月
味香と焚中へ張あり
おぢおぢの向ふに畏
おぢおぢとておぢおぢ

半哥仙

きふ六つおちる所の後
初穂小判とておぢおぢ
辰松風は味を結や
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ

半哥仙

初房の糞に濁るおぢおぢ
月おぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ

松原氏
貞州

おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ
おぢおぢとておぢおぢ

上州小幡
芦門

日圓出多ら感入てあすくえ
 ありや一葉彼の世中
 八巻の巻終にきくまの
 空の下公の蕃の初巻
 神風とくしきりの松の風
 要もくくうまうけく候
 もり起てあはれと焼乱賢
 孕て下る海芽生の宿

幻者のそちとあたる雲の
 其向の獅子の座ありつ
 中飛車にたてまれば縁を絶
 法平の巻守しきれまう事
 ぬうくく山の方の歌たわ
 一摺おるべきあまの鶴の声
 品川とまゝ人の碑 醒

華も大地に朱鞘光やと虎貞屋
 袖あり羽織あまをさる貞山
 半哥仙 上野山名
菊水堂蓮
 海も海に霧の敷もあめ 芦橋
 若るそよ風の海に泥飛 菊要
 引付のをく成雲の帆のそよ水荷
 葉と入あかしくと決立水巴
 二重中と若家ぬき月水延

桶のあちくはも袖の扱合
 若るそよ風の海に泥飛 菊要
 引付のをく成雲の帆のそよ水荷
 葉と入あかしくと決立水巴
 二重中と若家ぬき月水延
 此六法と海と旗の合臥牛

冬後の冷もずのむねに水亀 肚の骨も丸くは爲 帽子を
 大門とまじくと秋の空の中へ 菊籠 徳園の初れと八木穂の奏 芦翁
 酒のまろくにに花志のけき 水羽 木男と深ても其をまへし
 眼をみゆり切投て書きしら 菊山 車にぬねぬの継く 卧牛
 牛の毒て赤る 萩の傍 水荷 斤云に初と 林公高き
 掃人の思をさるる 橋並 清水延 山敷若れす 咒の息 芦翁
 汗をかき 後後ハ 萩おき 菊要 小山の奥も 猿小 巻くく
 雪れと 鳥の 橋の 門の 窓を さら 芦橋 橋も 羽と 伸長 采るる 卧牛

水巴
 水巴

表 白

額 芳のくく 水電 是格も 徳山

和 菊の 菊籠 湯 橋

水 羽 菊山

開 山

裏 白

松柏

松柏

頁十一

暮の富貴やむのうけ際 洗柿菴 貞至

晴映和雲の形もあつる 古翁 秋さゆり 以述懐も生れつき

あまのふり見は旅に能くして 貞屋 下あの家鴨 遠き面はなる

旅の後のあつて 跡附 湖船 田原のあつて 帆を

る等にも秋の詠の程をほし 芦翁 和信 天八のまこと 出する

うの秋風を命あつたれ 貞良 一つなて 半町半 花 巻

先づかかて 後陣と入つる 湖松 岩の移り 四六のり

またまたに 教の 斎辨 貞屋

四季

星川

あつて 世で 濃に じせる 若松山 貞至 了よう とうり 巻に 披く 巻の 貞山

宿を 八 様で けり あり 巻の 時 半町半中に

巻を 巻や 扱ひ 此 あり 秋の 巻 引く 後陣

と 食う とうり 知 初め 秋 時 あり 目や 水 此 巻に 引れて 巻を 巻

亦

り 而く 巻の 心 や む 大 根 貞賀 又 咳 や 夜 巻 とうり けり 巻 腰に 巻を 巻に 好む 巻の 巻

巻 巻の 大 福 とうり 巻 巻の 巻 巻 巻や 十二の 巻の 巻 とうり

おてふに他部の方のものを披露
仲や如くはふらふらと眺めらる

法に鑿とるものあり一物御を中

考に人多利く初多分貞屋
形やさうととと格 札

水仙のふらふらと眺めらる

奉納

真宗の御時より此の御時

于時安政三丙辰秋八月再刻

萬笈堂

東都書房

英大助原板



馬喰町三丁目

森屋治兵衛板

